

学校コード F129310109257

注3

設置年度 平成 31年度  
計画の区分： 学部の設置  
注1

届出

注2  
帝塚山大学 教育学部

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人帝塚山学園  
令和4年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	
職名・氏名	ジムキョクジチョウ コメダ ジュン 事務局次長 米田 準
電話番号	0742-48-9122
（夜間）	0742-48-9122
e-mail	shomu@jimu.tezukayama-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合：「〇〇大学」  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。  
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 教育学部

＜こども教育学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	20
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	40
7. その他全般的事項	41

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人帝塚山学園

## (2) 大学名 帝塚山大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒631-8585  
奈良県奈良市学園南三丁目1番3号

〒631-8501  
奈良県奈良市帝塚山七丁目1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヨシカワ カツヒサ) 吉川 勝久 (平成27年4月)	(トミオカ マサト) 富岡 将人 (令和4年4月)	理事長交代 令和4年4月1日 (4)
学長	(レンゲ カズミ) 蓮花 一己 (平成29年4月)		
学部長	(カツミ ヨシオ) 勝美 芳雄 (平成31年4月)	(シミズ マスハル) 清水 益治 (令和3年4月)	任期満了による変更 令和3年4月1日 (3)
学科長等	(シミズ マスハル) 清水 益治 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
 (例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)  
 令和4年度に報告する内容 → (4)  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学部 こども教育学科 学士（こども教育学）	教育学・保育学関係	4年	100人	年次人	400人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	1.06倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	840 (—) [—]	— (—) [—]	828 (—) [—]	— (—) [—]	552 (—) [—]	— (—) [—]	346 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	738 (—) [—]	— (—) [—]	733 (—) [—]	— (—) [—]	479 (—) [—]	— (—) [—]	308 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	211 (—) [—]	— (—) [—]	262 (—) [—]	— (—) [—]	256 (—) [—]	— (—) [—]	202 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	122 (—) [—]	— (—) [—]	102 (—) [—]	— (—) [—]	97 (—) [—]	— (—) [—]	103 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		1.22		1.02		0.97		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	122 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	102 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	97 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	103 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	
2年次	/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	118 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	101 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	96 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	
3年次			/		/		— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	116 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	98 [ — ] ( — )
4年次	/						/		/		— [ — ] ( — )
計			— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	122 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )					220 [ — ] ( — )

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	122 人	4 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	4 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、就職(1人)、学生個人の心身に関する事情(2人)
令和2年度	220 人	3 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、除籍(1人)
			令和2年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
令和3年度	314 人	6 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、除籍(1人)
			令和2年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への入学(1人)、除籍(1人)
			令和3年度	1 人	0 人	他の学部への転学(1人)
令和4年度	411 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		13 人		13 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{122} = \boxed{3.27} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{220} = \boxed{1.36} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{314} = \boxed{1.91} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{411} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<教育学部 こども教育学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教養科目	文化と人間A (日本の文化)	1前	2								1
	文化と人間B (世界の文化)	1後	2								1
	文化と人間C (文学)	1後	2								1
	文化と人間D (芸術)	1前	2								1
	社会と人間A (経済)	1後	2								1
	社会と人間B (教育)	1後	2								1
	社会と人間C (法学)	1後	2								1
	社会と人間D (マスコミ)	1後	2								1
	自然と人間A (生命)	1前	2								1
	自然と人間B (健康)	1後	2								1
	自然と人間C (環境)	1後	2								1
	自然と人間D (現代科学)	1後	2								1
	人間論A	1前	2								1
	人間論B	1後	2								1
	人権論A	1前	2								1
	人権論B	1後	2								1
情報基礎A	1前	2								1	
情報基礎B	1後	2								1	
健康科学A	1前	2								1	
健康科学B	1後	2								1	
小計 (20科目)	-										
共通教養科目	英語A	1前	1								4
	英語B	1前	1								4
	英語C	1後	1								4
	英語D	1後	1								4
	英語E	2前	1								2
	英語F	2前	1								1
	英語G	2後	1								3
	英語H	2後	1								1
	フランス語I	1前	2								1
	フランス語II	1後	2								1
外国語科目	中国語I	1前	2								2
	中国語II	1後	2								2
	ハングルI	1前	2								2
	ハングルII	1後	2								2
	小計 (14科目)	-									
	専門科目	基礎演習I	1前	1		4	5	3			
基礎演習II		1後	1		4	5	3				
こども教育学概論		1前	2		3						
こども教育研究法		1後	2		2	1					
こどもの文化と教育		2後	2								1
こども教育とメディア		2前	2								1
こども教育と演劇		2後	2								1
日本語表現法		1前・後	2								1
日本国憲法		1後	2								1
情報処理I		1前	2								1
情報処理II		1後	2								1
小計 (11科目)	-										

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目	文化と人間A (日本の文化)	1前	2									1
	文化と人間B (世界の文化)	1後	2									1
	文化と人間C (文学)	1後	2									1
	文化と人間D (芸術)	1前	2									1
	社会と人間A (経済)	1後	2									1
	社会と人間B (教育)	1後	2									1
	社会と人間C (法学)	1後	2									1
	社会と人間D (マスコミ)	1後	2									1
	自然と人間A (生命)	1前	2									1
	自然と人間B (健康)	1後	2									1
	自然と人間C (環境)	1後	2									1
	自然と人間D (現代科学)	1後	2									1
	人間論A	1前	2									1
	人間論B	1後	2									1
	人権論A	1前	2									1
	人権論B	1後	2									1
情報基礎A	1前	2									1	
情報基礎B	1後	2									1	
健康科学A	1前	2									1	
健康科学B	1後	2									1	
小計 (20科目)	-											
共通教養科目	英語A	1前	1									2
	英語B	1前	1									2
	英語C	1後	1									3
	英語D	1後	1									3
	英語E	2前	1									3
	英語F	2前	1									2
	英語G	2後	1									3
	英語H	2後	1									2
	フランス語I	1前・後	2									2
	フランス語II	1後	2									2
外国語科目	中国語I	1前・後	2									5
	中国語II	1後	2									2
	ハングルI	1前・後	2									4
	ハングルII	1後	2									2
	スペイン語I	1前・後	2									2
	スペイン語II	1後	2									1
小計 (16科目)	-											
専門科目	基礎演習I	1前	1		5	5						
	基礎演習II	1後	1		5	5						
	こども教育学概論	1前	2		3							
	こども教育研究法	1後	2		2	1						
	こどもの文化と教育	2後	2									1
	こども教育とメディア	2前	2									1
	こども教育と演劇	2後	2									1
	日本語表現法	1後	2									1
	日本国憲法	1後	2									1
	情報処理I	1前	2									1
	情報処理II	1後	2									1
小計 (11科目)	-											

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	幼児と健康	1前	1			1						
	幼児と人間関係	2前	1			1						
	幼児と環境	2後	1			2		1				
	幼児と言葉	2後	1					1				
	幼児と表現	1後	1								2	
	保育内容(健康)	1後	2			1						
	保育内容(人間関係)	1後	2				1					
	保育内容(環境)	1前	2			1						
	保育内容(言葉)	1後	2			1						
	保育内容(表現)	1前	2				1					
	保育内容(総論)	1前	2								1	
	国語科研究Ⅰ	2後	2					1				
	国語科研究Ⅱ	4後	2					1				
	社会科研究Ⅰ	2後	2					1				
	社会科研究Ⅱ	4後	2					1				
	算数科研究Ⅰ	2後	2			1						
	算数科研究Ⅱ	2後	2			1						
	理科研究Ⅰ	2後	2					1				
	理科研究Ⅱ	4前	2					1				
	生活科研究Ⅰ	2前	2					1				
	生活科研究Ⅱ	3後	2					1				
	音楽科研究Ⅰ	1後	2							5		
	音楽科研究Ⅱ	2前	2					1		5		
	図画工作科研究Ⅰ	1前	2							2		
	図画工作科研究Ⅱ	4後	2							1		
	家庭科研究Ⅰ	2後	2							1		
	家庭科研究Ⅱ	3後	2							1		
	体育科研究Ⅰ	1後	2			1						
	体育科研究Ⅱ	4前	2			1						
専門科目	小学校英語科研究Ⅰ	3前	2				1					
	小学校英語科研究Ⅱ	3後	2				1					
	道徳教育論	4後	2			1						
	発達心理学	1前	2			1						
専門基幹科目	教育心理学	1後	2			1						
	幼児理解	2前	2			1						
	こどもの保健	2後	2							1		
	こどもの健康と安全	2前	1							1		
	こどもの食と栄養	2前	2							1		
	乳児保育Ⅰ	1前	2							1		
	乳児保育Ⅱ	2前	1				1					
	障害児保育・特別支援教育論	2前	2							1		
	こども食育論	4前	2							1		
	保育評価論	3後	2			1						
	障害児心理学	3前	2							1		
	教職論	3前	2			1						
	教育原理	1後	2			1						
	教育課程論	2後	2							1		
	国語科教育法	3前	2				1					
	社会科教育法	3前	2					1				
	算数科教育法	3前	2			1						
	理科教育法	3前	2					1				
	生活科教育法	3前	2							1		
	音楽科教育法	2後	2					1				
	図画工作科教育法	2前	2							1		
	家庭科教育法	3前	2							1		
	体育科教育法	2前	2			1						
	英語科教育法	3前	2				1					
	特別活動論	3前	2			1						
	総合的な学習の時間の指導法	3後	2			1	1	1				
	教育方法論	3前	2							1		
	教育相談	4前	2							1		
	生徒・進路指導論	4後	2							1		
	教育実習事前事後指導(小学校)	3通	1			1	1	1				
	教育実習事前事後指導(幼稚園)	3前	1			1	1					
	教育実習(小学校)	3前	4			1	1	1				
	教育実習(幼稚園)	3前	4			1	1	1				
	保育原理A	1前	2			1						

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	幼児と健康	1前	1			1						
	幼児と人間関係	2前	1			1						
	幼児と環境	2後	1			1		2				
	幼児と言葉	2後	1						1			
	幼児と表現	1後	1									2
	保育内容(健康)	1後	2			1						
	保育内容(人間関係)	1後	2				1					
	保育内容(環境)	1前	2			1						
	保育内容(言葉)	1後	2			1						
	保育内容(表現)	1前	2				1					
	保育内容(総論)	1前	2								1	
	国語科研究Ⅰ	2後	2					1				
	国語科研究Ⅱ	4後	2					1				
	社会科研究Ⅰ	2後	2						1			
	社会科研究Ⅱ	4後	2						1			
	算数科研究Ⅰ	2後	2			1						
	算数科研究Ⅱ	3後	2			1						
	理科研究Ⅰ	2後	2					1				
	理科研究Ⅱ	4後	2									1
	生活科研究Ⅰ	2前	2						1			
	生活科研究Ⅱ	3後	2						1			
	音楽科研究Ⅰ	1後	2									9
	音楽科研究Ⅱ	2前	2					1				9
	図画工作科研究Ⅰ	1前	2									2
	図画工作科研究Ⅱ	4後	2									1
	家庭科研究Ⅰ	2後	2									1
	家庭科研究Ⅱ	3後	2									1
	体育科研究Ⅰ	1後	2			1						
	体育科研究Ⅱ	4前	2			1						
専門科目	小学校英語科研究Ⅰ	3後	2				1					
	小学校英語科研究Ⅱ	3後	2				1					
	道徳教育論	4後	2									1
	発達心理学	1前	2			1						
専門基幹科目	教育心理学	1後	2			1						
	幼児理解	2前	2			1						
	こどもの保健	2後	2									1
	こどもの健康と安全	2前	1									1
	こどもの食と栄養	2前	2									1
	乳児保育Ⅰ	1前	2									1
	乳児保育Ⅱ	2前	1				1					
	障害児保育・特別支援教育論	2前	2									1
	こども食育論	4前	2									1
	保育評価論	3後	2			1						
	障害児心理学	3前	2									1
	教職論	3前	2			1						
	教育原理	1後	2			1						
	教育課程論	2後	2									1
	国語科教育法	3前	2				1					
	社会科教育法	3前	2						1			
	算数科教育法	3前	2			1						
	理科教育法	3前	2					1				1
	生活科教育法	3前	2									1
	音楽科教育法	2後	2					1				
	図画工作科教育法	2前	2									1
	家庭科教育法	3前	2									1
	体育科教育法	2前	2			1						
	英語科教育法	3前	2				1					
	特別活動論	3前	2			1						1
	総合的な学習の時間の指導法	3後	2									1
	教育方法論	3前	2					1				
	教育相談	4前	2									1
	生徒・進路指導論	4前	2									1
	教育実習事前事後指導(小学校)	3通	1			1	1	1				1
	教育実習事前事後指導(幼稚園)	3前	1				1	2				
	教育実習(小学校)	3通	4			1	1	1				
	教育実習(幼稚園)	3通	4			1	1	2				
	保育原理A	1前	2			1						



【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門基礎科目	保育原理B	1後	2			1						
	保育実習事前事後指導Ⅰ	2前	2				2					
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3後	1				2					
	保育所実習A	2前	2				1					
	保育所実習B	2前	2				1					
	保育指導の方法	2前	2								1	
	子育て支援論	4後	2				1					
	社会的養護Ⅱ	3前	2									1
	こども家庭支援論	3前	2				1					
	カウンセリングの基礎	3前	2									1
小計(77科目)	—											
専門科目 専門関連科目	社会福祉概論Ⅰ	1後	2									1
	社会福祉概論Ⅱ	3後	2									1
	保育相談演習	3後	2				1					
	教育行政学	2後	2									1
	教育社会学	2前	2									1
	児童福祉論Ⅰ	3後	2									1
	児童福祉論Ⅱ	4前	2									1
	家族福祉論	3後	2									1
	社会的養護Ⅰ	2前	2									1
	外国人児童の指導	3前	2									1
	保育・教職実践演習(幼・小)	4後	2			2	1	2				1
	施設実習A	3後	2				1					
	施設実習B	4前	2				1					
	体育実技	1前	1									1
	インターンシップⅠ	2後	2									1
	インターンシップⅡ	3前	2									1
	海外文化演習	1通	2									1
	保育・教職技術特論Ⅰ	3前	2									2
	保育・教職技術特論Ⅱ	3後	2									2
	保育・教職技術特論Ⅲ	4前	2									2
	保育・教職技術特論Ⅳ	4後	2									2
	介護等体験Ⅰ	3通	1			1						
	介護等体験Ⅱ	3通	1				1					
小計(23科目)	—											
専門科目 専門研究科目	応用演習Ⅰ	2前	2			3		2				
	応用演習Ⅱ	2後	2			1	5	1				
	ゼミナールⅠ	3前	2			5	5	3				
	ゼミナールⅡ	3後	2			5	5	3				
	ゼミナールⅢ	4前	2			5	5	3				
	ゼミナールⅣ	4後	2			5	5	3				
	卒業研究	4通	4			5	5	3				
小計(7科目)	—											
合計(152科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
<p>ア. 卒業要件 下記のイの履修方法に従い、124単位以上修得すること。</p> <p>イ. 履修方法 (1)共通教養科目 下記の1及び2に従い、合計20単位以上履修すること。 1. 教養科目から、12単位以上 2. 外国語科目から、8単位以上 (2)専門科目 下記の1～4に従い、合計86単位以上を履修すること。 1. 専門基礎科目から、必修8単位を含め12単位以上 2. 専門基礎科目から、50単位以上 3. 専門関連科目から、12単位以上 4. 専門研究科目から、必修12単位を含め12単位以上 (3)その他 上記アの124単位と上記イの(1)及び(2)に従い履修した最低単位数106単位との差18単位は、どの科目区分から充足してもよい。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門基礎科目	保育原理B	1後	2			1						
	保育実習事前事後指導Ⅰ	2前	2				2	1				
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3後	1				1	1				
	保育所実習A	2通	2				2	2				
	保育所実習B	2通	2				2	1				
	保育指導の方法	2前	2									
	子育て支援論	4後	2					1				
	社会的養護Ⅱ	3前	2									1
	こども家庭支援論	3前	2					1				
	カウンセリングの基礎	3前	2									
小計(77科目)	—											
専門科目 専門関連科目	社会福祉概論Ⅰ	1後	2									1
	社会福祉概論Ⅱ	3後	2									1
	保育相談演習	3後	2					1				
	教育行政学	2後	2									1
	教育社会学	2前	2									1
	児童福祉論Ⅰ	3後	2									1
	児童福祉論Ⅱ	4前	2					1				
	家族福祉論	3後	2									1
	社会的養護Ⅰ	2前	2									1
	外国人児童の指導	3前	2									1
	保育・教職実践演習(幼・小)	4後	2			2	1	2	1			1
	施設実習A	3後	2				1					
	施設実習B(未開講)	4前	2				1					
	体育実技	1前	1									1
	インターンシップⅠ	2後	2									1
	インターンシップⅡ	3前	2									1
	海外文化演習	1通	2									1
	保育・教職技術特論Ⅰ	3前	2					1				7
	保育・教職技術特論Ⅱ	3後	2									7
	保育・教職技術特論Ⅲ	4前	2									7
	保育・教職技術特論Ⅳ	4後	2									7
	介護等体験Ⅰ	3通	1			1			1			
	介護等体験Ⅱ	3通	1				1					
小計(23科目)	—											
専門科目 専門研究科目	応用演習Ⅰ	2前	2			4	1	1				
	応用演習Ⅱ	2後	2			2	4					
	ゼミナールⅠ	3前	2			6	5	1				
	ゼミナールⅡ	3後	2			6	5	1				
	ゼミナールⅢ	4前	2			6	5	1				
	ゼミナールⅣ	4後	2			6	5	1				
	卒業研究	4通	4					2				
小計(7科目)	—											
合計(154科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
<p>ア. 卒業要件 下記のイの履修方法に従い、124単位以上修得すること。</p> <p>イ. 履修方法 (1)共通教養科目 下記の1及び2に従い、合計20単位以上履修すること。 1. 教養科目から、12単位以上 2. 外国語科目から、8単位以上 (2)専門科目 下記の1～4に従い、合計86単位以上を履修すること。 1. 専門基礎科目から、必修8単位を含め12単位以上 2. 専門基礎科目から、50単位以上 3. 専門関連科目から、12単位以上 4. 専門研究科目から、必修12単位を含め12単位以上 (3)その他 上記アの124単位と上記イの(1)及び(2)に従い履修した最低単位数106単位との差18単位は、どの科目区分から充足してもよい。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教養科目	文化と人間A (日本の文化)	1前		2							1
	文化と人間B (世界の文化)	1後		2							1
	文化と人間C (文学)	1後		2							1
	文化と人間D (芸術)	1前		2							1
	社会と人間A (経済)	1後		2							1
	社会と人間B (教育)	1後		2							1
	社会と人間C (法学)	1後		2							1
	社会と人間D (マスコミ)	1後		2							1
	自然と人間A (生命)	1前		2							1
	自然と人間B (健康)	1後		2							1
	自然と人間C (環境)	1後		2							1
	自然と人間D (現代科学)	1後		2							1
	人間論A	1前		2							1
	人間論B	1後		2							1
	人権論A	1前		2							1
	人権論B	1後		2							1
	情報基礎A	1前		2							1
情報基礎B	1後		2							1	
健康科学A	1前		2							1	
健康科学B	1後		2							1	
小計 (20科目)	-										
共通教養科目	英語A	1前		1							3
	英語B	1前		1							2
	英語C	1後		1							3
	英語D	1後		1							2
	英語E	2前		1							2
	英語F	2前		1							1
	英語G	2後		1							3
	英語H	2後		1							1
	フランス語I	1前・後		2							2
	フランス語II	1後		2							2
	中国語I	1前・後		2							5
	中国語II	1後		2							2
ハングルI	1前・後		2							4	
ハングルII	1後		2							2	
スペイン語I	1前・後		2							2	
スペイン語II	1後		2							1	
小計 (16科目)	-										
専門科目	基礎演習I	1前	1			5	4	3			
	基礎演習II	1後	1			5	4	3			
	こども教育学概論	1前	2			3					
	こども教育研究法	1後	2			2	1				
	こどもの文化と教育	2後		2							1
	こども教育とメディア	2前		2							1
	こども教育と演劇	2後		2							1
	日本語表現法	1前・後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	情報処理I	1前		2							1
	情報処理II	1後		2							1
小計 (11科目)	-										

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目	文化と人間A (日本の文化)	1前		2								1
	文化と人間B (世界の文化)	1後		2								1
	文化と人間C (文学)	1後		2								1
	文化と人間D (芸術)	1前		2								1
	社会と人間A (経済)	1後		2								1
	社会と人間B (教育)	1後		2								1
	社会と人間C (法学)	1後		2								1
	社会と人間D (マスコミ)	1後		2								1
	自然と人間A (生命)	1前		2								1
	自然と人間B (健康)	1後		2								1
	自然と人間C (環境)	1後		2								1
	自然と人間D (現代科学)	1後		2								1
	人間論A	1前		2								1
	人間論B (未開講)	1後		2								1
	人権論A	1前		2								1
	人権論B	1後		2								1
	情報基礎A	1前		2								1
情報基礎B	1後		2								1	
健康科学A	1前		2								1	
健康科学B	1後		2								1	
小計 (20科目)	-											
共通教養科目	英語A	1前		1								2
	英語B	1前		1								2
	英語C	1後		1								3
	英語D	1後		1								2
	英語E	2前		1								3
	英語F	2前		1								1
	英語G	2後		1								3
	英語H	2後		1								1
	フランス語I	1前・後		2								2
	フランス語II	1後		2								2
	中国語I	1前・後		2								4
	中国語II	1後		2								2
ハングルI	1前・後		2								4	
ハングルII	1後		2								2	
スペイン語I	1前・後		2								2	
スペイン語II	1後		2								1	
小計 (16科目)	-											
専門科目	基礎演習I	1前	1			5	5	2				
	基礎演習II	1後	1			5	5	2				
	こども教育学概論	1前	2			3						
	こども教育研究法	1後	2			2	1					
	こどもの文化と教育	2後		2								1
	こども教育とメディア (未開講)	2前		2								1
	こども教育と演劇	2後		2								1
	日本語表現法	1前・後		2								1
	日本国憲法	1後	2									1
	情報処理I	1前		2								1
	情報処理II (未開講)	1後		2								1
小計 (11科目)	-											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	幼児と健康	1前	1			1						
	幼児と人間関係	2前	1			1						
	幼児と環境	2後	1			2		1				
	幼児と言葉	2後	1					1				
	幼児と表現	1後	1								2	
	保育内容（健康）	1後	2			1						
	保育内容（人間関係）	1後	2					1				
	保育内容（環境）	1前	2			1						
	保育内容（言葉）	1後	2			1						
	保育内容（表現）	1前	2					1				
	保育内容（総論）	1前	2								1	
	国語科研究Ⅰ	2後	2					1				
	国語科研究Ⅱ	4後	2					1				
	社会科研究Ⅰ	2後	2					1				
	社会科研究Ⅱ	4後	2					1				
	算数科研究Ⅰ	2後	2			1						
	算数科研究Ⅱ	2後	2			1						
	理科研究Ⅰ	2後	2					1				
	理科研究Ⅱ	4前	2					1				
	生活科研究Ⅰ	2前	2					1				
	生活科研究Ⅱ	3後	2					1				
	音楽科研究Ⅰ	1後	2								8	
	音楽科研究Ⅱ	2前	2					1			5	
	図画工作科研究Ⅰ	2前	2					1			2	
	図画工作科研究Ⅱ	4後	2					1			1	
	家庭科研究Ⅰ	2後	2					1			1	
	家庭科研究Ⅱ	3後	2					1			1	
	体育科研究Ⅰ	1後	2			1						
	体育科研究Ⅱ	4前	2			1						
専門科目	小学校英語科研究Ⅰ	3前	2					1				
	小学校英語科研究Ⅱ	3後	2					1				
	道徳教育論	4後	2								1	
	発達心理学	1前	2			1						
専門基幹科目	教育心理学	1後	2			1						
	幼児理解	2前	2			1						
	こどもの保健	2後	2								1	
	こどもの健康と安全	2前	1								2	
	こどもの食と栄養	2前	2								1	
	乳児保育Ⅰ	1前	2								1	
	乳児保育Ⅱ	2前	1					1				
	障害児保育・特別支援教育論	2前	2								1	
	こども食育論	4前	2								1	
	保育評価論	3後	2			1						
	障害児心理学	3前	2								1	
	教職論	3前	2			1						
	教育原理	1後	2								1	
	教育課程論	2後	2								1	
	国語科教育法	3前	2					1				
	社会科教育法	3前	2					1				
	算数科教育法	3前	2			1						
	理科教育法	3前	2					1				
	生活科教育法	3前	2								1	
	音楽科教育法	2後	2					1				
	図画工作科教育法	2前	2								1	
	家庭科教育法	3前	2								1	
	体育科教育法	2前	2			1						
	英語科教育法	3前	2					1				
	特別活動論	3前	2			1						1
	総合的な学習の時間の指導法	3後	2			1		1		1		
	教育方法論	3前	2								1	
	教育相談	4前	2								1	
	生徒・進路指導論	4後	2								1	
	教育実習事前事後指導（小学校）	3通	1			1		1		1		
	教育実習事前事後指導（幼稚園）	3前	1					2				
	教育実習（小学校）	3前	4			1		1		1		
	教育実習（幼稚園）	3前	4			1		2				
	保育原理A	1前	2			1						

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	幼児と健康	1前	1			1						
	幼児と人間関係	2前	1			1						
	幼児と環境	2後	1			2		1				
	幼児と言葉	2後	1					1				
	幼児と表現	1後	1								2	
	保育内容（健康）	1後	2			1						
	保育内容（人間関係）	1後	2					1				
	保育内容（環境）	1前	2			1						
	保育内容（言葉）	1後	2			1						
	保育内容（表現）	1前	2					1				
	保育内容（総論）	1前	2								1	
	国語科研究Ⅰ	2後	2					1				
	国語科研究Ⅱ	4後	2					1				
	社会科研究Ⅰ	2後	2							1		
	社会科研究Ⅱ	4後	2							1		
	算数科研究Ⅰ	2後	2			1						
	算数科研究Ⅱ	3後	2			1						
	理科研究Ⅰ	2後	2					1				
	理科研究Ⅱ	4前	2					1				
	生活科研究Ⅰ	2前	2					1				
	生活科研究Ⅱ	3後	2					1				
	音楽科研究Ⅰ	1後	2								8	
	音楽科研究Ⅱ	2前	2					1			8	
	図画工作科研究Ⅰ	1前	2								2	
	図画工作科研究Ⅱ	4後	2								1	
	家庭科研究Ⅰ	2後	2								1	
	家庭科研究Ⅱ	3後	2								1	
	体育科研究Ⅰ	1後	2			1						
	体育科研究Ⅱ	4前	2			1						
専門科目	小学校英語科研究Ⅰ	3前	2					1				
	小学校英語科研究Ⅱ	3後	2					1				
	道徳教育論	4後	2								1	
	発達心理学	1前	2			1						
専門基幹科目	教育心理学	1後	2			1						
	幼児理解	2前	2			1						
	こどもの保健	2後	2								1	
	こどもの健康と安全	2前	1								2	
	こどもの食と栄養	2前	2								1	
	乳児保育Ⅰ	1前	2								1	
	乳児保育Ⅱ	2前	1					1				
	障害児保育・特別支援教育論	2前	2								1	
	こども食育論	4前	2								1	
	保育評価論	3後	2			1						
	障害児心理学	3前	2								1	
	教職論	3前	2			1						
	教育原理	1後	2					1				
	教育課程論	2後	2								1	
	国語科教育法	3前	2					1				
	社会科教育法	3前	2							1		
	算数科教育法	3前	2			1						
	理科教育法	3前	2							1		
	生活科教育法	3前	2								1	
	音楽科教育法	2後	2					1				
	図画工作科教育法	2前	2								1	
	家庭科教育法	3前	2								1	
	体育科教育法	2前	2			1						
	英語科教育法	3前	2					1				
	特別活動論	3前	2			1						1
	総合的な学習の時間の指導法	3後	2			1		1		1		
	教育方法論	3前	2								1	
	教育相談	4前	2								1	
	生徒・進路指導論	4後	2								1	
	教育実習事前事後指導（小学校）	3通	1			1		1		1		
	教育実習事前事後指導（幼稚園）	3前	1					2				
	教育実習（小学校）	3前	4			1		1		1		
	教育実習（幼稚園）	3前	4			1		2				
	保育原理A	1前	2			1						

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門基礎科目	保育原理B	1後	2			1						
	保育実習事前事後指導Ⅰ	2前	2			1	1					
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3後	1			1	1					
	保育所実習A	2前	2				1					
	保育所実習B	2前	2				1					
	保育指導の方法	2前	2								1	
	子育て支援論	4後	2				1					
	社会的養護Ⅱ	3前	2									1
	こども家庭支援論	3前	2			1						
	カウンセリングの基礎	3前	2									1
小計(77科目)	—											
専門科目 専門関連科目	社会福祉概論Ⅰ	1後	2									1
	社会福祉概論Ⅱ	3後	2									1
	保育相談演習	3後	2			1						
	教育行政学	2後	2									1
	教育社会学	2前	2									1
	児童福祉論Ⅰ	3後	2									1
	児童福祉論Ⅱ	4前	2									1
	家族福祉論	3後	2									1
	社会的養護Ⅰ	2前	2									1
	外国人児童の指導	3前	2									1
	保育・教職実践演習(幼・小)	4後	2			1	1	2				1
	施設実習A	3後	2			1						
	施設実習B	4前	2			1						
	体育実技	1前	1									1
	インターンシップⅠ	2後	2									1
	インターンシップⅡ	3前	2									1
	海外文化演習	1通	2									1
	保育・教職技術特論Ⅰ	3前	2									2
	保育・教職技術特論Ⅱ	3後	2									2
	保育・教職技術特論Ⅲ	4前	2									2
	保育・教職技術特論Ⅳ	4後	2									2
	介護等体験Ⅰ	3通	1			1						
	介護等体験Ⅱ	3通	1			1						
小計(23科目)	—											
専門科目 専門研究科目	応用演習Ⅰ	2前	2			3		2				
	応用演習Ⅱ	2後	2			2	4	1				
	ゼミナールⅠ	3前	2			6	4	3				
	ゼミナールⅡ	3後	2			5	4	3				
	ゼミナールⅢ	4前	2			6	4	3				
	ゼミナールⅣ	4後	2			5	4	3				
	卒業研究	4通	4			6	4	3				
小計(7科目)	—											
合計(154科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
<p>ア. 卒業要件 下記のイの履修方法に従い、124単位以上修得すること。</p> <p>イ. 履修方法 (1)共通教養科目 下記の1及び2に従い、合計20単位以上履修すること。 1. 教養科目から、12単位以上 2. 外国語科目から、8単位以上 (2)専門科目 下記の1～4に従い、合計86単位以上を履修すること。 1. 専門基礎科目から、必修8単位を含め12単位以上 2. 専門基礎科目から、50単位以上 3. 専門関連科目から、12単位以上 4. 専門研究科目から、必修12単位を含め12単位以上 (3)その他 上記アの124単位と上記イの(1)及び(2)に従い履修した最低単位数106単位との差18単位は、どの科目区分から充足してもよい。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門基礎科目	保育原理B	1後	2			1						
	保育実習事前事後指導Ⅰ	2通	2			2	1					1
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3後	1			1	1					
	保育所実習A	2通	2			2	2					
	保育所実習B	2通	2			2	1					
	保育指導の方法	2前	2									1
	子育て支援論	4後	2				1					
	社会的養護Ⅱ	3前	2									1
	こども家庭支援論	3前	2				1					
	カウンセリングの基礎	3前	2									1
小計(77科目)	—											
専門科目 専門関連科目	社会福祉概論Ⅰ	1後	2									1
	社会福祉概論Ⅱ	3後	2									1
	保育相談演習	3後	2				1					
	教育行政学	2後	2									1
	教育社会学	2前	2									1
	児童福祉論Ⅰ	3後	2									1
	児童福祉論Ⅱ	4前	2									1
	家族福祉論	3後	2									1
	社会的養護Ⅰ	2前	2									1
	外国人児童の指導	3前	2									1
	保育・教職実践演習(幼・小)	4後	2				2	2	1			1
	施設実習A	3後	2				1					
	施設実習B	4前	2				1					
	体育実技	1前	1									1
	インターンシップⅠ	2後	2									1
	インターンシップⅡ	3前	2									1
	海外文化演習	1通	2									1
	保育・教職技術特論Ⅰ	3前	2									2
	保育・教職技術特論Ⅱ	3後	2									2
	保育・教職技術特論Ⅲ	4前	2									2
	保育・教職技術特論Ⅳ	4後	2									2
	介護等体験Ⅰ	3通	1				1					
	介護等体験Ⅱ	3通	1				1					
小計(23科目)	—											
専門科目 専門研究科目	応用演習Ⅰ	2前	2			4	1	2				
	応用演習Ⅱ	2後	2			2	4					
	ゼミナールⅠ	3前	2			6	5	2				
	ゼミナールⅡ	3後	2			6	5	2				
	ゼミナールⅢ	4前	2			6	5	2				
	ゼミナールⅣ	4後	2			6	5	2				
	卒業研究	4通	4			6	5	2				
小計(7科目)	—											
合計(154科目)	—											
卒業要件及び履修方法												
<p>ア. 卒業要件 下記のイの履修方法に従い、124単位以上修得すること。</p> <p>イ. 履修方法 (1)共通教養科目 下記の1及び2に従い、合計20単位以上履修すること。 1. 教養科目から、12単位以上 2. 外国語科目から、8単位以上 (2)専門科目 下記の1～4に従い、合計86単位以上を履修すること。 1. 専門基礎科目から、必修8単位を含め12単位以上 2. 専門基礎科目から、50単位以上 3. 専門関連科目から、12単位以上 4. 専門研究科目から、必修12単位を含め12単位以上 (3)その他 上記アの124単位と上記イの(1)及び(2)に従い履修した最低単位数106単位との差18単位は、どの科目区分から充足してもよい。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))</p>												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 教養科目	文化と人間A（日本の文化）	1前		2							1
	文化と人間B（世界の文化）	1後		2							1
	文化と人間C（文学）	1後		2							1
	文化と人間D（芸術）	1前		2							1
	社会と人間A（経済）	1後		2							1
	社会と人間B（教育）	1後		2							1
	社会と人間C（法学）	1後		2							1
	社会と人間D（マスコミ）	1後		2							1
	自然と人間A（生命）	1前		2							1
	自然と人間B（健康）	1後		2							1
	自然と人間C（環境）	1後		2							1
	自然と人間D（現代科学）	1後		2							1
	人間論A	1前		2							1
	人間論B	1後		2							1
	人権論A	1前		2							1
	人権論B	1後		2							1
	情報基礎A	1前		2							1
	情報基礎B	1後		2							1
	健康科学A	1前		2							1
	健康科学B	1後		2							1
小計（20科目）	-										
共通 教養科目	英語A	1前		1							2
	英語B	1前		1							2
	英語C	1後		1							3
	英語D	1後		1							2
	英語E	2前		1							3
	英語F	2前		1							1
	英語G	2後		1							3
	英語H	2後		1							1
	フランス語Ⅰ	1前・後		2							2
	フランス語Ⅱ	1後		2							2
	中国語Ⅰ	1前・後		2							4
	中国語Ⅱ	1後		2							2
	ハングルⅠ	1前・後		2							4
ハングルⅡ	1後		2							2	
スペイン語Ⅰ	1前・後		2							2	
スペイン語Ⅱ	1後		2							1	
小計（16科目）	-										
専門 科目	基礎演習Ⅰ	1前	1			5	5	1			
	基礎演習Ⅱ	1後	1			5	5	1			
	こども教育学概論	1前	2			3					
	こども教育研究法	1後	2			2	1				
	こどもの文化と教育	2後		2							1
	こども教育とメディア	2前		2							1
	こども教育と演劇	2後		2							1
	日本語表現法	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	情報処理Ⅰ	1前		2							1
	情報処理Ⅱ	1後		2							1
小計（11科目）	-										

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	幼児と健康	1前	1			1						
	幼児と人間関係	2前	1			1						
	幼児と環境	2後	1			2		1				
	幼児と言葉	2後	1				1					
	幼児と表現	1後	1								2	
	保育内容（健康）	1後	2			1						
	保育内容（人間関係）	1後	2				1					
	保育内容（環境）	1前	2			1						
	保育内容（言葉）	1後	2			1						
	保育内容（表現）	1前	2				1					
	保育内容（総論）	1前	2								1	
	国語科研究Ⅰ	2後	2				1					
	国語科研究Ⅱ	4後	2				1					
	社会科研究Ⅰ	2後	2					1				
	社会科研究Ⅱ	4後	2					1				
	算数科研究Ⅰ	2後	2			1						
	算数科研究Ⅱ	3後	2			1						
	理科研究Ⅰ	2後	2					1				
	理科研究Ⅱ	4前	2					1				
	生活科研究Ⅰ	2前	2					1				
	生活科研究Ⅱ	3後	2					1				
	音楽科研究Ⅰ	1後	2								8	
	音楽科研究Ⅱ	2前	2				1				8	
	図画工作科研究Ⅰ	1前	2								2	
	図画工作科研究Ⅱ	4後	2								1	
	家庭科研究Ⅰ	2後	2								1	
	家庭科研究Ⅱ	3後	2								1	
	体育科研究Ⅰ	1後	2			1						
	体育科研究Ⅱ	4前	2			1						
専門科目	小学校英語科研究Ⅰ	3前	2				1					
	小学校英語科研究Ⅱ	3後	2				1					
	道徳教育論	4後	2								1	
	発達心理学	1前	2			1						
	教育心理学	1後	2			1						
	幼児理解	2前	2			1						
専門基幹科目	こどもの保健	2後	2								1	
	こどもの健康と安全	2前	1								2	
	こどもの食と栄養	2前	2								1	
	乳児保育Ⅰ	1前	2								1	
	乳児保育Ⅱ	2前	1				1					
	障害児保育・特別支援教育論	2前	2								1	
	こども食育論	4前	2								1	
	保育評価論	3後	2			1						
	障害児心理学	3前	2								1	
	教職論	3前	2			1						
	教育原理	1後	2			1						
	教育課程論	2後	2								1	
	国語科教育法	3前	2				1					
	社会科教育法	3前	2					1				
	算数科教育法	3前	2			1						
	理科教育法	3前	2					1				
	生活科教育法	3前	2								1	
	音楽科教育法	2後	2				1					
	図画工作科教育法	2前	2								1	
	家庭科教育法	3前	2								1	
	体育科教育法	2前	2			1						
	英語科教育法	3前	2				1					
	特別活動論	3前	2								1	
	総合的な学習の時間の指導法	3後	2								1	
	教育方法論	3前	2			1						
	教育相談	4前	2								1	
	生徒・進路指導論	4後	2								1	
	教育実習事前事後指導（小学校）	3通	1			1	1	2				
	教育実習事前事後指導（幼稚園）	3前	1			1	2					
	教育実習（小学校）	3通	4			1	1	2				
	教育実習（幼稚園）	3通	4			1	2					
	保育原理A	1前	2			1						

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 専門基礎科目	保育原理B	1後		2		1						
	保育実習事前事後指導Ⅰ	2前		2		2	1					
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3後		1		1	1					
	保育所実習A	2通		2		2	1					
	保育所実習B	2通		2		2	1					
	保育指導の方法	2前		2							1	
	子育て支援論	4後		2			1					
	社会的養護Ⅱ	3前		2								1
	こども家庭支援論	3前		2		1						
	カウンセリングの基礎	3前		2								1
小計(77科目)	—											
専門科目 専門関連科目	社会福祉概論Ⅰ	1後		2								1
	社会福祉概論Ⅱ	3後		2								1
	保育相談演習	3後		2		1						
	教育行政学	2後		2								1
	教育社会学	2前		2								1
	児童福祉論Ⅰ	3後		2								1
	児童福祉論Ⅱ	4前		2								1
	家族福祉論	3後		2								1
	社会的養護Ⅰ	2前		2								1
	外国人児童の指導	3前		2								1
	保育・教職実践演習(幼・小)	4後		2		2	2	1				1
	施設実習A	3後		2		1						
	施設実習B	4前		2		1						
	体育実技	1前		1								1
	インターンシップⅠ	2後		2								1
	インターンシップⅡ	3前		2								1
	海外文化演習	1通		2								
保育・教職技術特論Ⅰ	3前		2		1						5	
保育・教職技術特論Ⅱ	3後		2								5	
保育・教職技術特論Ⅲ	4前		2								2	
保育・教職技術特論Ⅳ	4後		2								2	
介護等体験Ⅰ	3通		1		1		1					
介護等体験Ⅱ	3通		1		1							
小計(23科目)	—											
専門科目 専門研究科目	応用演習Ⅰ	2前	2			4	1	2				
	応用演習Ⅱ	2後	2			2	4					
	ゼミナールⅠ	3前	2			6	5	2				
	ゼミナールⅡ	3後	2			6	5	2				
	ゼミナールⅢ	4前	2			6	5	2				
	ゼミナールⅣ	4後	2			6	5	2				
	卒業研究	4通	4			6	5	2				
小計(7科目)	—											
合計(154科目)	—											

卒業要件及び履修方法

ア. 卒業要件

下記のイの履修方法に従い、124単位以上修得すること。

イ. 履修方法

(1)共通教養科目

下記の1及び2に従い、合計20単位以上履修すること。

1. 教養科目から、12単位以上

2. 外国語科目から、8単位以上

(2)専門科目

下記の1～4に従い、合計86単位以上を履修すること。

1. 専門基礎科目から、必修8単位を含め12単位以上

2. 専門基礎科目から、50単位以上

3. 専門関連科目から、12単位以上

4. 専門研究科目から、必修12単位を含め12単位以上

(3)その他

上記アの124単位と上記イの(1)及び(2)に従い履修した最低単位数

106単位との差18単位は、どの科目区分から充足してもよい。

(履修科目の登録の上限:48単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。





【令和3年度】

- ・担当者変更の理由により、「英語A」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語B」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語C」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語D」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語E」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「フランス語I」の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「フランス語I」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「フランス語II」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「中国語I」の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「中国語I」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「ハングルI」の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「ハングルI」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、授業科目「スペイン語I」「スペイン語II」を新規に追加し、それぞれ「兼任・兼任2」「兼任・兼任1」を追加。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「基礎演習I」の専任教員の配置を「教授4、准教授5、講師3」から「教授5、准教授5、講師1」に変更。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「基礎演習II」の専任教員の配置を「教授4、准教授5、講師3」から「教授5、准教授5、講師1」に変更。
- ・担当者都合の理由により、「日本語表現法」の配当年次を「1前・後」から「1後」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「幼児と言葉」の専任教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「国語科研究I」の専任教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「国語科研究II」の専任教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「音楽科研究I」の担当者を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任8」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「音楽科研究II」の担当者を「准教授1、兼任・兼任5」から「准教授1、兼任・兼任8」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「道徳教育論」の担当者を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「こどもの健康と安全」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「特別活動論」の担当者を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「総合的な学習の時間の指導法」の担当者を「教授1、講師1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「教育方法論」の担当者を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「教育実習事前事後指導（小学校）」の専任教員の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「教授1、准教授1、講師2」に変更。
- ・担当者追加及び准教授昇任の理由により、「教育実習事前事後指導（幼稚園）」の専任教員の配置を「准教授1、講師1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「教育実習（小学校）」の配当年次を「3前」から「3通」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「教育実習（小学校）」の専任教員の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「教授1、准教授1、講師2」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「教育実習（幼稚園）」の配当年次を「3前」から「3通」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「教育実習（幼稚園）」の専任教員の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・担当者追加及び教授昇任の理由により、「保育実習事前事後指導I」の担当者を「准教授2」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「保育実習事前事後指導II」の専任教員の配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「保育所実習A」の配当年次を「2前」から「2通」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、「保育所実習A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「保育所実習B」の配当年次を「2前」から「2通」に変更。
- ・担当教員追加の理由により、「保育所実習B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「こども家庭支援論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「保育相談演習」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「保育・教職実践演習（幼・小）」の担当者を「教授2、准教授1、講師2、兼任・兼任1」から「教授2、准教授2、講師1、兼任・兼任1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「施設実習A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「施設実習B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育・教職技術特論I」の担当者を「兼任・兼任2」から「教授1、兼任・兼任5」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育・教職技術特論II」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「介護等体験I」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「介護等体験II」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当者変更及び准教授昇任の理由により、「応用演習I」の専任教員の配置を「教授3、講師2」から「教授4、准教授1、講師2」に変更。
- ・担当者変更及び教授昇任の理由により、「応用演習II」の専任教員の配置を「教授1、准教授5、講師1」から「教授2、准教授4」に変更。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「ゼミナールI」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師2」に変更。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「ゼミナールII」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師2」に変更。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「ゼミナールIII」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師2」に変更。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「ゼミナールIV」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師2」に変更。
- ・教授及び准教授昇任の理由により、「卒業研究」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師2」に変更。

【令和4年度】

- ・担当者変更の理由により、「英語A」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語B」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語C」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語D」の担当者を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語E」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語F」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「英語H」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「フランス語I」の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「フランス語I」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「フランス語II」の担当者を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「中国語I」の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「中国語I」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「ハンブルグI」の配当年次を「1前」から「1前・後」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「ハンブルグI」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、授業科目「スペイン語I」「スペイン語II」を新規に追加し、それぞれ「兼任・兼任2」「兼任・兼任1」を追加。
- ・教授及び准教授昇任、担当者変更及び専任教員辞任の理由により、「基礎演習I」の専任教員の配置を「教授4、准教授5、講師3」から「教授5、准教授5」に変更。
- ・教授及び准教授昇任、担当者変更及び専任教員辞任の理由により、「基礎演習II」の専任教員の配置を「教授4、准教授5、講師3」から「教授5、准教授5」に変更。
- ・教育職員免許法施行規則改正の理由により、「こども教育とメディア」の科目名称を「こども教育とICT活用」に変更。
- ・担当者都合の理由により、「日本語表現法」の配当年次を「1前・後」から「1後」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「幼児と環境」の専任教員の配置を「教授2、講師1」から「教授2」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「幼児と言葉」の専任教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「国語科研究I」の専任教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「国語科研究II」の専任教員の配置を「講師1」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「理科研究I」の担当者を「講師1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「理科研究II」の配当年次を「4前」から「4後」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「音楽科研究I」の担当者を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任9」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「音楽科研究II」の担当者を「准教授1、兼任・兼任5」から「准教授1、兼任・兼任9」に変更。
- ・教育内容充実の理由により、「小学校英語科研究I」の配当年次を「3前」から「3後」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「道徳教育論」の担当者を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「理科教育法」の担当者を「講師1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・専任教員辞任の理由により、「特別活動論」の担当者を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「総合的な学習の時間の指導法」の担当者を「教授1、准教授1、講師1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「教育方法論」の担当者を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・担当者都合の理由により、「生徒・進路指導論」の配当年次を「4後」から「4前」に変更。
- ・担当者都合の理由により、「教育相談」の配当年次を「4前」から「4後」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「教育実習事前事後指導（小学校）」の担当者を「教授1、准教授1、講師1」から「教授1、准教授1、講師1、兼任・兼任1」に変更。
- ・担当者追加及び准教授昇任の理由により、「教育実習事前事後指導（幼稚園）」の専任教員の配置を「准教授1、講師1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「教育実習（小学校）」の配当年次を「3前」から「3通」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「教育実習（幼稚園）」の配当年次を「3前」から「3通」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「教育実習（幼稚園）」の専任教員の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「教授1、准教授2」に変更。
- ・担当者追加及び教授昇任の理由により、「保育実習事前事後指導I」の担当者を「准教授2」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「保育実習事前事後指導II」の専任教員の配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「保育所実習A」の配当年次を「2前」から「2通」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育所実習A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対応の理由により、「保育所実習B」の配当年次を「2前」から「2通」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育所実習B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「こども家庭支援論」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「保育相談演習」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当者変更の理由により、「児童福祉論II」の担当者を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。
- ・准教授昇任の理由により、「保育・教職実践演習（幼・小）」の担当者を「教授2、准教授1、講師2、兼任・兼任1」から「教授2、准教授2、講師1、兼任・兼任1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「施設実習A」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「施設実習B」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育・教職技術特論I」の担当者を「兼任・兼任2」から「教授1、兼任・兼任7」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育・教職技術特論II」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育・教職技術特論III」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「保育・教職技術特論IV」の担当者を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・担当者追加の理由により、「介護等体験I」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1、講師1」に変更。
- ・教授昇任の理由により、「介護等体験II」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当者追加及び准教授昇任の理由により、「応用演習I」の専任教員の配置を「教授3、講師2」から「教授4、准教授1、講師1」に変更。
- ・担当者変更及び教授昇任の理由により、「応用演習II」の専任教員の配置を「教授1、准教授5、講師1」から「教授2、准教授4」に変更。
- ・教授及び准教授昇任、担当者変更及び専任教員辞任の理由により、「ゼミナールI」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師1」に変更。
- ・教授及び准教授昇任、担当者変更及び専任教員辞任の理由により、「ゼミナールII」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師1」に変更。
- ・教授及び准教授昇任、担当者変更及び専任教員辞任の理由により、「ゼミナールIII」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師1」に変更。
- ・教授及び准教授昇任、担当者変更及び専任教員辞任の理由により、「ゼミナールIV」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「教授6、准教授5、講師1」に変更。
- ・学生希望クラスのみ開講の理由により、「卒業研究」の専任教員の配置を「教授5、准教授5、講師3」から「准教授2」に変更。

- (注) ・ 2(1) — ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
11 科目	141 科目	科目	152 科目	11 科目 [ ]	143 科目 [ +2 ]	科目 [ ]	154 科目 [ +2 ]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	理科研究Ⅱ	2	4後	専門	選択	担当予定専任教員辞任のため、代替措置なし
2	保育指導の方法	2	2前	専門	選択	担当予定兼任教員辞任のため、代替措置なし
3	カウンセリングの基礎	2	3前	専門	選択	担当予定兼任教員辞任のため、代替措置なし

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「理科研究Ⅱ」「保育指導の方法」「カウンセリングの基礎」は、専門基幹科目の選択科目であり、例年履修者数も少なく、学生の履修への影響は少ない。各科目の不開講について、履修要項に記載し、学生に周知している。来年度について、「理科研究Ⅱ」は適任者に担当してもらう予定である。「保育指導の方法」と「カウンセリングの基礎」は履修者が極度に少ないため、教育効果を考え廃止することを検討する。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{4}{152} = \boxed{2.63}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考	
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	・帝塚山中学校 収容定員 960人 運動場基準面積 8,400㎡ ・帝塚山高等学校 収容定員 1,350人 運動場基準面積 8,400㎡ 奈良市起業の工事施工（道路拡 幅）に伴う売却のため（3） 奈良市起業の工事施工（道路拡 幅）に伴う売却のため（4）	
	校舎敷地	57,461.57 57,952.58㎡	1,367.25㎡	18,991.33 <del>19,110.00</del> 19,260.07㎡	77,820.15 <del>77,938.82</del> 78,579.90㎡		
	運動場用地	135,854.66㎡	— ㎡	28,692.46 <del>28,834.34</del> 28,907.28㎡	164,547.12 <del>164,689.00</del> 164,761.94㎡		
	小 計	193,316.23 193,807.24㎡	1,367.25㎡	47,683.79 <del>47,944.34</del> 48,167.35㎡	242,367.27 <del>242,627.82</del> 243,341.84㎡		
	そ の 他	3,850.73㎡	— ㎡	2,450.93㎡	6,301.66㎡		
	合 計	197,166.96 197,657.97㎡	1,367.25㎡	50,134.72 <del>50,398.27</del> 50,618.28㎡	248,668.93 <del>248,929.48</del> 249,643.50㎡		
(2) 校 舎		専 用 56,649.28㎡ (56,649.28㎡)	共 用 3,658.24㎡ (3,658.24㎡)	共用する他の 学校等の専用 25,818.63㎡ (25,818.63㎡)	計 86,126.15㎡ (86,126.15㎡)	・帝塚山中学校 収容定員 960人 校舎基準面積 5,160㎡ ・帝塚山高等学校 収容定員 1,350人 校舎基準面積 6,940㎡	
(3) 教 室 等		講 義 室 70 69 74室	演 習 室 83 82 80室	実験実習室 61 60 59 59室	情報処理学習施設 25 26 26 (補助職員 人)	語学学習施設 0 4室 (補助職員 人)	
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 教育学部 こども教育学科		室 数 19 20	室 室		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点
	教育学部 こども教育学科	643,000[126,300] 644,000[126,100]	5,177[1,329] <del>5,158[1,324]</del> 5,162[1,323] 5,148[1,322] 5,083[1,314]	59 [0] 58 [0]	11,000 11,640	( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( )
	計	(639,642[126,218]) <del>(636,577[126,056])</del> (639,167[125,810]) <del>(629,487[125,434])</del> (628,000[124,900])	(5,177[1,329]) <del>(5,158[1,324])</del> (5,162[1,323]) <del>(5,148[1,322])</del> (5,083[1,314])	(59 [0]) <del>(58 [0])</del>	(10,974) <del>(10,935)</del> (10,836) <del>(10,770)</del> (11,240)	( ) ( ) ( )	( ) ( ) ( )
(6) 図 書 館		面 積 4,810.30㎡	閱 覧 座 席 数 561席 565席	収 納 可 能 冊 数 551,500冊			
(7) 体 育 館		面 積 1,638.90㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球・サッカー場 1面、陸上競技・ラグビー場 1面、 テニスコート 5面			大学全体	
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設年度	完成年度
		教員 1人当り研究費等 共同研究費等	実績系 480千円 非実績系 450千円	実績系 480千円 非実績系 450千円	図書購入費	1,190千円	1,190千円
	学生 1人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次
		1,310千円	1,130千円	1,130千円	1,130千円	- 千円	- 千円
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、受取利息・配当金、雑収入等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	帝塚山大学					学生募集停止学科数	3	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
文学部	4	110	-	440	-	1.08	0.82		平成11	奈良県奈良市帝塚山七丁目1番1号	
日本文化学科	4	110	-	440	学士(文学)	1.08	0.82		平成11		
経済学部	4	-	-	-	-	-	-		昭和62	同上	平成30年学生募集停止
経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	-		昭和62		
経営学部	4	-	-	-	-	-	-		平成10	同上	平成30年学生募集停止
経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	-		平成10		
経済経営学部	4	210	-	840	-	1.04	0.94		平成30	同上	
経済経営学科	4	210	-	840	学士(経済学)	1.04	0.94		平成30		
法学部	4	95	-	380	-	1.08	0.87		平成22	同上	
法学科	4	95	-	380	学士(法学)	1.08	0.87		平成22		
心理学部	4	100	-	400	-	1.18	1.06		平成16	奈良県奈良市学園南三丁目1番3号	
心理学科	4	100	-	400	学士(心理)	1.18	1.06		平成16		
現代生活学部	4	190	-	760	-	1.06	1.01		平成16	同上	
食物栄養学科	4	120	-	480	学士(栄養)	0.95	0.91		平成16		
居住空間デザイン学科	4	70	-	280	学士(生活科学)	1.17	1.12		平成16		
こども学科	4	-	-	-	学士(こども学)	-	-		平成21		平成31年学生募集停止
教育学部	4	100	-	400	-	-	-		平成31	同上	
こども教育学科	4	100	-	400	学士(こども教育学)	1.06	1.03		平成31		
大学全体	-	805	-	3220	-	-	-		-	-	

大学の名称	帝塚山大学大学院					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度
人文科学研究科										
日本伝統文化専攻(博士前期課程)	2	8	-	16	修士(文学)	0.37	0.75		平成8	奈良県奈良市帝塚山七丁目1番1号
日本伝統文化専攻(博士後期課程)	3	2	-	6	博士(文学)	0.66	2.00		平成10	同上
心理科学研究科										
心理科学専攻(博士前期課程)	2	20	-	40	修士(心理学)	0.30	0.30		平成24	奈良県奈良市学園南三丁目1番3号
心理科学専攻(博士後期課程)	3	3	-	9	博士(心理学)	0.11	0.33		平成24	同上
大学院全体	-	33	-	71	-	-	-	-	-	-

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
  - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。



5 教員組織の状況

<教育学部 幼児教育学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	担当授業科目名																																
専	専	勝美 芳雄 (62) <平成31年4月> 教育学修士	教授	勝美 芳雄 (62) <平成31年4月> 教育学修士 基礎演習Ⅱ こども教育学概論※ 幼児と環境※ 算数科研究Ⅰ 算数科研究Ⅱ 算数科教育法 総合的な学習の時間の指導法※ 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 保育・教職実践演習(幼・小) 介護等体験Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	勝美 芳雄 (63) <平成31年4月> 教育学修士	教授	勝美 芳雄 (63) <平成31年4月> 教育学修士 こども教育学概論※ こどもの文化と教育※ 幼児と環境※ 算数科研究Ⅰ 算数科研究Ⅱ 算数科教育法 総合的な学習の時間の指導法※ 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 保育・教職実践演習(幼・小) 介護等体験Ⅰ 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	清水 益治 (56) <平成31年4月> 博士(教育学)	教授	清水 益治 (56) <平成31年4月> 博士(教育学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ こども教育学概論※ こども教育研究法※ 幼児と環境※ 保育内容(環境) 教育心理学 保育評価論 保育原理A 保育原理B 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	清水 益治 (58) <平成31年4月> 博士(教育学)	教授	清水 益治 (58) <平成31年4月> 博士(教育学) こども教育学概論※ こども教育研究法※ 幼児と環境※ 保育内容(環境) 教育心理学 保育評価論 保育原理A 保育原理B 保育・教職技術特論Ⅰ 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	岡澤 哲子 (65) <平成31年4月> 博士(学術)	教授	岡澤 哲子 (65) <平成31年4月> 博士(学術) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と健康 保育内容(健康) 体育科研究Ⅰ 体育科研究Ⅱ 体育科教育法 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	岡澤 哲子 (66) <平成31年4月> 博士(学術)	教授	岡澤 哲子 (66) <平成31年4月> 博士(学術) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と健康 保育内容(健康) 体育科研究Ⅰ 体育科研究Ⅱ 体育科教育法 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	岡澤 哲子 (67) <平成31年4月> 博士(学術)	教授	岡澤 哲子 (67) <平成31年4月> 博士(学術) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と健康 保育内容(健康) 体育科研究Ⅰ 体育科研究Ⅱ 体育科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	岡澤 哲子 (68) <平成31年4月> 博士(学術)	教授	岡澤 哲子 (68) <平成31年4月> 博士(学術) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と健康 保育内容(健康) 体育科研究Ⅰ 体育科研究Ⅱ 体育科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	山本 順彦 (62) <平成31年4月> 教育学修士	教授	山本 順彦 (62) <平成31年4月> 教育学修士 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ こども教育学概論※ 道徳教育論 教育論 特別活動論 保育・教職実践演習(幼・小) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	山本 順彦 (62) <平成31年4月> 教育学修士	教授	山本 順彦 (62) <平成31年4月> 教育学修士 基礎演習Ⅰ こども教育学概論※ 教育論 特別活動論 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅢ 卒業研究	専	城田 直彦 (58) <令和3年4月> 修士(教育学)	教授	城田 直彦 (58) <令和3年4月> 修士(教育学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ こども教育学概論※ 幼児と環境※ 算数科研究Ⅰ 算数科研究Ⅱ 算数科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 保育・教職実践演習(幼・小) 介護等体験Ⅰ 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専	城田 直彦 (59) <令和3年4月> 修士(教育学)	教授	城田 直彦 (59) <令和3年4月> 修士(教育学) 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ こども教育学概論※ 幼児と環境※ 算数科研究Ⅰ 算数科研究Ⅱ 算数科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 保育・教職実践演習(幼・小) 介護等体験Ⅰ 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名				
専任	准教授	宮田(恒川) 知絵 (42) <平成31年4月> 修士(音楽)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 保育内容(表現) 音楽科研究Ⅱ 音楽科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	宮田(恒川) 知絵 (42) <平成31年4月> 修士(音楽)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 保育内容(表現) 音楽科研究Ⅱ 音楽科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	宮田(恒川) 知絵 (43) <平成31年4月> 修士(音楽)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 保育内容(表現) 音楽科研究Ⅱ 音楽科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	宮田(恒川) 知絵 (44) <平成31年4月> 修士(音楽)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 保育内容(表現) 音楽科研究Ⅱ 音楽科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	宮田(恒川) 知絵 (45) <平成31年4月> 修士(音楽)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 保育内容(表現) 音楽科研究Ⅱ 音楽科教育法 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究
専任	講師	楳松 利晴 (62) <平成31年4月> 文学士	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会科学研究Ⅰ 社会科学研究Ⅱ 生活科学研究Ⅰ 生活科学研究Ⅱ 社会科教育法 社会科教育法 総合的な学習の時間の指導法※ 保育・教職実践演習(幼・小)	専任	講師	楳松 利晴 (62) <平成31年4月> 文学士	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会科学研究Ⅰ 社会科学研究Ⅱ 生活科学研究Ⅰ 生活科学研究Ⅱ 社会科教育法 社会科教育法 総合的な学習の時間の指導法※ 保育・教職実践演習(幼・小)	専任	講師	楳松 利晴 (63) <平成31年4月> 文学士	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 社会科学研究Ⅰ 社会科学研究Ⅱ 生活科学研究Ⅰ 生活科学研究Ⅱ 社会科教育法 社会科教育法 総合的な学習の時間の指導法※ 保育・教職実践演習(幼・小)	専任	講師	楳松 利晴 (64) <平成31年4月> 文学士	社会科学研究Ⅰ 社会科学研究Ⅱ 生活科学研究Ⅰ 生活科学研究Ⅱ 社会科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 保育・教職実践演習(幼・小) 介護等体験! 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	講師	楳松 利晴 (65) <平成31年4月> 文学士	社会科学研究Ⅰ 社会科学研究Ⅱ 生活科学研究Ⅰ 生活科学研究Ⅱ 社会科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 保育・教職実践演習(幼・小) 介護等体験! 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究
専任	講師	吉田 雅昭 (42) <平成31年4月> 博士(文学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と言葉 国語科研究Ⅰ 国語科研究Ⅱ 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 保育・教職実践演習(幼・小) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	講師	吉田 雅昭 (42) <平成31年4月> 博士(文学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と言葉 国語科研究Ⅰ 国語科研究Ⅱ 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 保育・教職実践演習(幼・小) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	吉田 雅昭 (43) <平成31年4月> 博士(文学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と言葉 国語科研究Ⅰ 国語科研究Ⅱ 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 保育・教職実践演習(幼・小) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	吉田 雅昭 (44) <平成31年4月> 博士(文学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と言葉 国語科研究Ⅰ 国語科研究Ⅱ 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 保育・教職実践演習(幼・小) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	准教授	吉田 雅昭 (45) <平成31年4月> 博士(文学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と言葉 国語科研究Ⅰ 国語科研究Ⅱ 教育実習事前事後指導(幼稚園) 教育実習(幼稚園) 保育・教職実践演習(幼・小) 応用演習Ⅰ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究
専任	講師	日高 寛 (35) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と環境※ 理科研究Ⅰ 理科研究Ⅱ 理科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	講師	日高 寛 (35) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と環境※ 理科研究Ⅰ 理科研究Ⅱ 理科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	講師	日高 寛 (36) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と環境※ 理科研究Ⅰ 理科研究Ⅱ 理科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究	専任	講師	日高 寛 (37) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 幼児と環境※ 理科研究Ⅰ 理科研究Ⅱ 理科教育法 教育実習事前事後指導(小学校) 教育実習(小学校) 応用演習Ⅱ ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ 卒業研究				
				兼任	教授	池田 眞寸子 (61) <平成31年4月> 教育学修士	英語A												
				兼任	教授	大西 智之 (59) <平成31年4月> 文学修士	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ												
				兼任	教授	大西 智之 (60) <平成31年4月> 文学修士	中国語Ⅱ												
				兼任	教授	大西 智之 (61) <平成31年4月> 文学修士	中国語Ⅱ												
兼任	教授	飛世 昭裕 (59) <令和2年4月> 法学修士	インターンシップⅠ インターンシップⅡ	兼任	教授	飛世 昭裕 (58) <令和2年4月> 法学修士	インターンシップⅠ インターンシップⅡ	兼任	教授	飛世 昭裕 (59) <令和2年4月> 法学修士	インターンシップⅠ インターンシップⅡ	兼任	教授	飛世 昭裕 (60) <令和2年4月> 法学修士	インターンシップⅠ インターンシップⅡ				
				兼任	教授	日置 慎治 (57) <令和2年4月> 工学博士	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ												
				兼任	教授	日置 慎治 (58) <令和2年4月> 工学博士	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ												
				兼任	教授	奥村 由美子 (55) <令和4年4月> 博士(医学)	インターンシップⅠ インターンシップⅡ												

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任 准教授		小谷(重藤) 早稚江 (46) <令和2年4月> Ph. D (米國)	英語 E	兼任 准教授		小谷(重藤) 早稚江 (45) <令和2年4月> Ph. D (米國)	英語 E 海外文化演習	兼任 准教授		小谷(重藤) 早稚江 (46) <令和2年4月> Ph. D (米國)	英語 G	兼任 准教授		元根 朋美 (48) <令和3年4月> 修士(文学)	総合的な学習の時間の指導法
兼任 准教授		奥村(保田) 玲香 (42) <平成31年4月> M. A. (米國)	英語 A 英語 B 英語 C 英語 D 英語 E 英語 G 海外文化演習	兼任 准教授		奥村(保田) 玲香 (42) <平成31年4月> M. A. (米國)	育児休暇	兼任 准教授		奥村(保田) 玲香 (43) <平成31年4月> M. A. (米國)	英語 A 英語 C 英語 E 英語 G	兼任 准教授		JACK VICTOR BOWER (47) <令和4年4月> Ph. D	海外文化演習
兼任 講師		落合 史生 (72) <平成31年4月> 理学博士	情報処理 I 情報処理 II	兼任 講師		落合 史生 (72) <平成31年4月> 理学博士	情報処理 I 情報処理 II							奥村(保田) 玲香 (45) <平成31年4月> M. A. (米國)	英語 A 英語 C 英語 E 英語 G
兼任 講師		才村 眞理 (72) <令和3年4月> 修士(社会学)	児童福祉論 I 児童福祉論 II 家族福祉論	兼任 講師		才村 眞理 (70) <令和3年4月> 修士(社会学)	児童福祉論 I 児童福祉論 II 家族福祉論	兼任 講師		才村 眞理 (71) <令和3年4月> 修士(社会学)	児童福祉論 I 児童福祉論 II 家族福祉論	兼任 講師			
兼任 講師		吉田 和男 (71) <平成31年4月> 文学修士	英語 A 英語 B 英語 C 英語 D	兼任 講師		吉田 和男 (71) <平成31年4月> 文学修士	英語 A 英語 C								
兼任 講師		中嶋 和久 (71) <平成31年4月> 文学修士	文化と人間 B (世界の文化) 人間論 A 人間論 B	兼任 講師		中嶋 和久 (71) <平成31年4月> 文学修士	文化と人間 B (世界の文化) 人間論 A 人間論 B								
				兼任 講師		西村 日出男 (71) <令和元年9月> 文学修士	教育原理 道徳教育論								
兼任 講師		都留 進 (70) <平成31年4月> 教育学士	幼児と表現 図画工作科研究 I 図画工作科研究 II 図画工作科教育法	兼任 講師		都留 進 (70) <平成31年4月> 教育学士	幼児と表現 図画工作科研究 I 図画工作科研究 II 図画工作科教育法								
兼任 講師		池島 徳大 (70) <令和4年4月> 博士(学校教育学)	生徒・進路指導論	兼任 講師		池島 徳大 (67) <令和4年4月> 博士(学校教育学)	生徒・進路指導論	兼任 講師		池島 徳大 (68) <令和4年4月> 博士(学校教育学)	生徒・進路指導論	兼任 講師		池島 徳大 (69) <令和4年4月> 博士(学校教育学)	生徒・進路指導論
兼任 講師		豊永 知恵子 (68) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II	兼任 講師		豊永 知恵子 (68) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II	兼任 講師		豊永 知恵子 (69) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II	兼任 講師			
兼任 講師		安井 伸郎 (68) <平成31年4月> 理学博士	自然と人間 D (現代科学)	兼任 講師		安井 伸郎 (68) <平成31年4月> 理学博士	自然と人間 D (現代科学)	兼任 講師		安井 伸郎 (69) <平成31年4月> 理学博士	自然と人間 D (現代科学)	兼任 講師		安井 伸郎 (71) <平成31年4月> 理学博士	自然と人間 D (現代科学)
兼任 講師		長谷 雄一 (68) <令和2年4月> 教育学修士	保育指導の方法	兼任 講師		長谷 雄一 (67) <令和2年4月> 教育学修士	保育指導の方法	兼任 講師		長谷 雄一 (68) <令和2年4月> 教育学修士	保育指導の方法	兼任 講師		長谷 雄一 (69) <令和2年4月> 教育学修士	保育指導の方法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	勝部 月子 (67) <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	講師	勝部 月子 (67) <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	講師	勝部 月子 (68) <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	講師	勝部 月子 (69) <平成31年4月> 博士(学術)
		文化と人間A (日本の文化)			文化と人間A (日本の文化)			文化と人間A (日本の文化)			文化と人間A (日本の文化)
			兼任	講師	平山 篤子 (67) <平成31年4月> 博士(文学)						
					スペイン語 I						
兼任	講師	王(文) 冬蘭 (67) <平成31年4月> 博士(文学)	兼任	講師	王(文) 冬蘭 (67) <平成31年4月> 博士(文学)	兼任	講師	王(文) 冬蘭 (68) <平成31年4月> 博士(文学)	兼任	講師	王(文) 冬蘭 (69) <平成31年4月> 博士(文学)
		中国語 I 中国語 II			中国語 I			中国語 I			中国語 I
									兼任	講師	王(文) 冬蘭 (70) <平成31年4月> 博士(文学)
									兼任	講師	海川 和彦 (69) <令和4年4月> M.A.(米国)
											英語 D
兼任	講師	吉岡 みのり (67) <令和2年4月> 文学修士・M.A.(米国)	兼任	講師	吉岡 みのり (66) <令和2年4月> 文学修士・M.A.(米国)	兼任	講師	吉岡 みのり (67) <令和2年4月> 文学修士・M.A.(米国)	兼任	講師	吉岡 みのり (69) <令和2年4月> 文学修士・M.A.(米国)
		英語 G			英語 G	兼任	講師	英語 E 英語 G			英語 E 英語 G
兼任	講師	谷口 義昭 (67) <令和3年4月> 博士(農学)	兼任	講師	谷口 義昭 (65) <令和3年4月> 博士(農学)	兼任	講師	谷口 義昭 (67) <令和3年4月> 博士(農学)	兼任	講師	谷口 義昭 (68) <令和3年4月> 博士(農学)
		生活科教育法			生活科教育法			生活科教育法			生活科教育法
兼任	講師	松本 知子 (67) <令和4年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	松本 知子 (64) <令和4年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	松本 知子 (65) <令和4年4月> 修士(教育学)			
		保育・教職実践演習(幼・小)			保育・教職実践演習(幼・小)			保育・教職実践演習(幼・小)			
兼任	講師	旗 啓祝 (66) <平成31年4月> 経済学士	兼任	講師	旗 啓祝 (66) <平成31年4月> 経済学士	兼任	講師	旗 啓祝 (67) <平成31年4月> 経済学士	兼任	講師	旗 啓祝 (69) <平成31年4月> 経済学士
		社会と人間D (マスコミ)			社会と人間D (マスコミ)			社会と人間D (マスコミ)			社会と人間D (マスコミ)
									兼任	講師	小枝 繁昭 (69) <令和4年4月> 短期大学士(美術)
											幼児と環境 園児工作科研究 I 園児工作科研究 II
兼任	講師	RODNEY ARTHUR DUNHAM (66) <令和2年4月> M.A.(米国)	兼任	講師	RODNEY ARTHUR DUNHAM (65) <令和2年4月> M.A.(米国)	兼任	講師	RODNEY ARTHUR DUNHAM (66) <令和2年4月> M.A.(米国)	兼任	講師	RODNEY ARTHUR DUNHAM (68) <令和2年4月> M.A.(米国)
		英語 G			英語 G	兼任	講師	英語 C			英語 C
兼任	講師	小林 憲一 (65) <令和2年4月> 教育学修士	兼任	講師	小林 憲一 (64) <平成31年4月> 教育学修士	兼任	講師	小林 憲一 (65) <平成31年4月> 教育学修士	兼任	講師	小林 憲一 (67) <平成31年4月> 教育学修士
		英語 F 英語 H			英語 A 英語 C 英語 F 英語 H	兼任	講師	英語 B 英語 D 英語 F 英語 H			英語 B 英語 D 英語 F 英語 H
兼任	講師	谷口 明子 (65) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	谷口 明子 (64) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	谷口 明子 (66) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	谷口 明子 (67) <令和2年4月> 教育学士
		家庭科研究 I 家庭科研究 II 家庭科教育法			家庭科研究 I 家庭科研究 II 家庭科教育法			家庭科研究 I 家庭科研究 II 家庭科教育法			家庭科研究 I 家庭科研究 II 家庭科教育法
									兼任	講師	小島 源一郎 (65) <令和3年4月> 教育学士
									兼任	講師	小島 源一郎 (68) <令和3年4月> 教育学士
											教育実習事前事後指導(小学校)
兼任	講師	赤井 悟 (63) <平成31年4月> 修士(学校教育学)	兼任	講師	赤井 悟 (64) <平成31年4月> 修士(学校教育学)	兼任	講師	赤井 悟 (65) <平成31年4月> 修士(学校教育学)	兼任	講師	赤井 悟 (66) <平成31年4月> 修士(学校教育学)
		社会と人間B (教育)			社会と人間B (教育)			社会と人間B (教育)			社会と人間B (教育)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	奥村 正子 (63) <平成31年4月> 芸術学修士	兼任	講師	奥村 正子 (64) <平成31年4月> 芸術学修士	兼任	講師	奥村 正子 (65) <平成31年4月> 芸術学修士	兼任	講師	奥村 正子 (66) <平成31年4月> 芸術学修士
		音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II
兼任	講師	橋本 一美 (63) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	橋本 一美 (63) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	橋本 一美 (64) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	橋本 一美 (66) <平成31年4月> 修士(文学)
		英語 A 英語 B 英語 C 英語 D			英語 B 英語 D			英語 B 英語 D			英語 B
兼任	講師	磯田 宏子 (63) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	磯田 宏子 (62) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	磯田 宏子 (64) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	磯田 宏子 (64) <令和2年4月> 博士(教育学)
		こどもの保健 こどもの健康と安全			こどもの保健 こどもの健康と安全			こどもの保健 こどもの健康と安全			こどもの保健 こどもの健康と安全
			兼任	講師	安川 祐司 (62) <平成31年4月> 学士(文学)	兼任	講師	安川 祐司 (64) <平成31年4月> 学士(文学)	兼任	講師	安川 祐司 (65) <平成31年4月> 学士(文学)
					英語 C			英語 A 英語 C			英語 A 英語 C 英語 D
								村上 嘉信 (64) <令和3年4月> 教育学士	兼任	講師	村上 嘉信 (65) <令和3年4月> 教育学士
								自然と人間 B (健康)			自然と人間 B (健康)
								植田 森子 (63) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	植田 森子 (64) <令和3年4月> 修士(教育学)
								日本語表現法			日本語表現法
			兼任	講師	木本 雅子 (61) <令和元年9月> 教育学修士	兼任	講師	木本 雅子 (62) <令和元年9月> 教育学修士	兼任	講師	木本 雅子 (64) <令和元年9月> 教育学修士
					音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II
兼任	講師	日笠 みどり (61) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	日笠 みどり (60) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	日笠 みどり (62) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	日笠 みどり (63) <令和2年4月> 修士(教育学)
		こども教育と演劇			こども教育と演劇			こども教育と演劇			こども教育と演劇
兼任	講師	藤本 敦夫 (60) <令和2年4月> 教育学修士	兼任	講師	藤本 敦夫 (59) <令和2年4月> 教育学修士	兼任	講師	藤本 敦夫 (60) <令和2年4月> 教育学修士			
		教育行政学			教育行政学			教育行政学			
						兼任	講師	信田 和則 (60) <令和3年4月> 教職修士(専門職)	兼任	講師	信田 和則 (62) <令和3年4月> 教職修士(専門職)
								道徳教育論 特別活動論			道徳教育論 特別活動論
								出水 典子 (61) <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	出水 典子 (62) <令和3年4月> 博士(教育学)
								こどもの健康と安全			こどもの保健 こどもの健康と安全
						兼任	講師	吉田 直子 (60) <令和3年4月> 修士(教育学(音楽教育))	兼任	講師	吉田 直子 (61) <令和3年4月> 修士(教育学(音楽教育))
								保育・教職技術特論 I 保育・教職技術特論 II			保育・教職技術特論 I 保育・教職技術特論 III
兼任	講師	長谷川 泉 (60) <令和3年4月> 文学修士	兼任	講師	長谷川 泉 (58) <令和3年4月> 文学修士	兼任	講師	長谷川 泉 (59) <令和3年4月> 文学修士	兼任	講師	長谷川 泉 (60) <令和3年4月> 文学修士
		カウンセリングの基礎			カウンセリングの基礎			カウンセリングの基礎			カウンセリングの基礎
兼任	講師	角田 宏子 (58) <平成31年4月> 博士(文学)	兼任	講師	角田 宏子 (58) <平成31年4月> 博士(文学)	兼任	講師	角田 宏子 (59) <平成31年4月> 博士(文学)			
		日本語表現法			日本語表現法			日本語表現法			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	康 燕マイ (58) <平成31年4月> 修士(教育学)	中国語 I 中国語 II	兼任	講師	康 燕マイ (58) <平成31年4月> 修士(教育学)	中国語 I 中国語 II	兼任	講師	康 燕マイ (60) <平成31年4月> 修士(教育学)	中国語 I 中国語 II	兼任	講師	康 燕マイ (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	中国語 I 中国語 II
				兼任	講師	藤本 武司 (58) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II	兼任	講師	藤本 武司 (60) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II	兼任	講師	藤本 武司 (61) <平成31年4月> 文学修士	フランス語 I フランス語 II
				兼任	講師	原田 昌幸 (60) <令和2年4月> 教育学修士	幼児と表現 図画工作科研究 I	兼任	講師	原田 昌幸 (60) <令和2年4月> 教育学修士	幼児と表現 図画工作科研究 I	兼任	講師	原田 昌幸 (61) <令和2年4月> 教育学修士	幼児と表現 図画工作科研究 I
								兼任	講師	松浦 芳子 (60) <令和3年9月> 博士(比較文学)	英語 G	兼任	講師	松浦 芳子 (60) <令和3年9月> 博士(比較文学)	英語 F 英語 G 英語 H
				兼任	講師	洪 玉芳 (57) <平成31年4月> 修士(文化言語学)	中国語 I	兼任	講師	洪 玉芳 (58) <平成31年4月> 修士(文化言語学)	中国語 I	兼任	講師	洪 玉芳 (60) <平成31年4月> 修士(文化言語学)	中国語 I
兼任	講師	測田 陽子 (57) <平成31年4月> 修士(教育学)	音楽科研究 I 音楽科研究 II	兼任	講師	測田 陽子 (57) <平成31年4月> 修士(教育学)	音楽科研究 I 音楽科研究 II	兼任	講師	測田 陽子 (59) <平成31年4月> 修士(教育学)	音楽科研究 I 音楽科研究 II	兼任	講師	測田 陽子 (60) <平成31年4月> 修士(教育学)	音楽科研究 I 音楽科研究 II
				兼任	講師	川端 加代 (56) <平成31年4月> 文学修士	中国語 I	兼任	講師	川端 加代 (57) <平成31年4月> 文学修士	中国語 I	兼任	講師	川端 加代 (58) <平成31年4月> 文学修士	中国語 I
兼任	講師	黄 鎮杰 (56) <平成31年4月> 修士(文学)	ハングル I ハングル II	兼任	講師	黄 鎮杰 (57) <平成31年4月> 修士(文学)	ハングル I ハングル II	兼任	講師	黄 鎮杰 (58) <平成31年4月> 修士(文学)	ハングル I ハングル II	兼任	講師	黄 鎮杰 (59) <平成31年4月> 修士(文学)	ハングル I ハングル II
				兼任	講師	美 麗穂 (56) <平成31年4月> 博士(文学)	ハングル I ハングル II	兼任	講師	美 麗穂 (57) <平成31年4月> 博士(文学)	ハングル I ハングル II	兼任	講師	美 麗穂 (58) <平成31年4月> 博士(文学)	ハングル I ハングル II
兼任	講師	千葉 武夫 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)	乳児保育 I	兼任	講師	千葉 武夫 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)	乳児保育 I	兼任	講師	千葉 武夫 (57) <平成31年4月> 修士(教育学)	乳児保育 I	兼任	講師	千葉 武夫 (58) <平成31年4月> 修士(教育学)	乳児保育 I
兼任	講師	佐藤 葉子 (54) <平成31年4月> 修士(理学)	情報基礎 A 情報基礎 B	兼任	講師	佐藤 葉子 (54) <平成31年4月> 修士(理学)	情報基礎 A 情報基礎 B	兼任	講師	佐藤 葉子 (56) <平成31年4月> 修士(理学)	情報基礎 A 情報基礎 B	兼任	講師	佐藤 葉子 (57) <平成31年4月> 修士(理学)	情報基礎 A 情報基礎 B
				兼任	講師	寺本(禎生) あけみ (56) <令和2年4月> 文学修士	スペイン語 I	兼任	講師	寺本(禎生) あけみ (56) <令和2年4月> 文学修士	スペイン語 I	兼任	講師	寺本(禎生) あけみ (57) <令和2年4月> 文学修士	スペイン語 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	劉 麟玉 (54) <令和3年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	劉 麟玉 (53) <令和3年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	劉 麟玉 (54) <令和3年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	劉 麟玉 (55) <令和3年4月> 博士(人文科学)
		保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ			保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ			保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ			保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ
兼任	講師	都留 浩子 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	都留 浩子 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	都留 浩子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	都留 浩子 (56) <平成31年4月> 博士(医学)
		自然と人間A(生命)			自然と人間A(生命)			自然と人間A(生命)			自然と人間A(生命)
兼任	講師	上田 由香理 (53) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	講師	上田 由香理 (50) <令和4年4月> 博士(学術)						
		こども食育論			こども食育論						
兼任	講師	福井 真裕子 (52) <平成31年4月> 修士(器楽)	兼任	講師	福井 真裕子 (52) <平成31年4月> 修士(器楽)	兼任	講師	福井 真裕子 (53) <平成31年4月> 修士(器楽)			福井 真裕子 (55) <平成31年4月> 修士(器楽)
		音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ			音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ			音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ			音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ
						兼任	講師	巽 美奈子 (52) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	講師	巽 美奈子 (54) <令和4年4月> 修士(文学)
								こども食育論			こども食育論
兼任	講師	周 相勲 (51) <平成31年4月> 修士(芸術)									
		ハングルⅠ ハングルⅡ									
兼任	講師	三木 美香 (51) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	三木 美香 (51) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	三木 美香 (52) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	三木 美香 (54) <令和2年4月> 修士(教育学)
		障害児保育・特別支援教育論			障害児保育・特別支援教育論			障害児保育・特別支援教育論			障害児保育・特別支援教育論
兼任	講師	花井 理香 (51) <令和3年4月> 博士(言語コミュニケーション文化)	兼任	講師	花井 理香 (49) <令和3年4月> 博士(言語コミュニケーション文化)						
		外国人児童の指導			外国人児童の指導						
兼任	講師	上出 浩 (50) <平成31年4月> 修士(法学)	兼任	講師	上出 浩 (50) <平成31年4月> 修士(法学)	兼任	講師	上出 浩 (51) <平成31年4月> 修士(法学)	兼任	講師	上出 浩 (53) <平成31年4月> 修士(法学)
		日本国憲法			日本国憲法			日本国憲法			日本国憲法
						兼任	講師	遠藤 純 (52) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	遠藤 純 (53) <令和3年4月> 修士(教育学)
								こどもの文化と教育			こどもの文化と教育
						兼任	講師	大野木 位行 (51) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	大野木 位行 (53) <令和2年4月> 修士(教育学)
								図画工作科教育法			図画工作科教育法
兼任	講師	加藤 敬介 (49) <平成31年4月> 修士(法学)	兼任	講師	加藤 敬介 (49) <平成31年4月> 修士(法学)	兼任	講師	加藤 敬介 (50) <平成31年4月> 修士(法学)	兼任	講師	加藤 敬介 (52) <平成31年4月> 修士(法学)
		社会と人間C(法学)			社会と人間C(法学)			社会と人間C(法学)			社会と人間C(法学)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	瀧川 光治 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	瀧川 光治 (50) <平成31年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	瀧川 光治 (51) <平成31年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	瀧川 光治 (52) <平成31年4月> 博士(教育学)
	保育内容(総論)			保育内容(総論)			保育内容(総論)			保育内容(総論)	
兼任	講師	安喜(前田) 万佐子 (49) <平成31年4月> 修士(芸術)	兼任	講師	安喜(前田) 万佐子 (50) <平成31年4月> 修士(芸術)	兼任	講師	安喜(前田) 万佐子 (51) <平成31年4月> 修士(芸術)	兼任	講師	安喜(前田) 万佐子 (51) <平成31年4月> 修士(芸術)
	幼児と表現 図画工作科研究 I			幼児と表現 図画工作科研究 I			幼児と表現 図画工作科研究 I <b>図画工作科研究 II</b>			幼児と表現 図画工作科研究 I <b>図画工作科研究 II</b>	
兼任	講師	武田 英里 (47) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	武田 英里 (48) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	武田 英里 (48) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	武田 英里 (48) <平成31年4月> 博士(医学)
	自然と人間B(健康)			自然と人間B(健康)			自然と人間B(健康)			自然と人間B(健康)	
			兼任	講師	SERGIO SONAN KENJI (46) <平成31年4月> 修士(国際公共政策)	兼任	講師	SERGIO SONAN KENJI (47) <平成31年4月> 修士(国際公共政策)	兼任	講師	SERGIO SONAN KENJI (48) <平成31年4月> 修士(国際公共政策)
							スペイン語 I スペイン語 II			スペイン語 I スペイン語 II	
			兼任	講師	林志煥 (46) <平成31年4月> 修士(言語文化学)	兼任	講師	林志煥 (47) <平成31年4月> 修士(言語文化学)	兼任	講師	林志煥 (48) <平成31年4月> 修士(言語文化学)
				ハングル I			ハングル I			ハングル I	
兼任	講師	木村 仁美 (46) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	木村 仁美 (46) <平成31年4月> 修士(文学)						
	英語 A 英語 B 英語 C 英語 D			英語 B 英語 D							
						兼任	講師	前木 由紀 (47) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)	兼任	講師	前木 由紀 (48) <令和2年4月> 博士(人間・環境学)
							文化と人間D(芸術)			文化と人間D(芸術)	
			兼任	講師	嵩原 美喜 (46) <令和2年4月> 博士(哲学)	兼任	講師	嵩原 美喜 (47) <令和2年4月> 博士(哲学)	兼任	講師	嵩原 美喜 (48) <令和2年4月> 博士(哲学)
				文化と人間B(世界の文化) 人間論A 人間論B			文化と人間B(世界の文化) 人間論A 人間論B			文化と人間B(世界の文化) 人間論A 人間論B	
									兼任	講師	奥村 果代 (48) <令和4年4月> 修士(人文学)
										文化と人間A(日本の文化)	
									兼任	講師	脇 聡 (48) <令和3年4月> 修士(文学)
										フランス語 I フランス語 II	
兼任	講師	森 由香 (44) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	森 由香 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	森 由香 (46) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	森 由香 (47) <平成31年4月> 修士(教育学)
	人権論A 人権論B			人権論A 人権論B			人権論A 人権論B			人権論A 人権論B	
						兼任	講師	岡村 季光 (45) <令和4年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	岡村 季光 (47) <令和4年4月> 修士(教育学)
							教育相談			教育相談	
兼任	講師	西脇 小百合 (44) <平成31年4月> 学士(芸術)	兼任	講師	西脇 小百合 (45) <平成31年4月> 学士(芸術)	兼任	講師	西脇 小百合 (46) <平成31年4月> 学士(芸術)	兼任	講師	西脇 小百合 (47) <平成31年4月> 学士(芸術)
	音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II			音楽科研究 I 音楽科研究 II <b>保育・教職技術特論 II</b> <b>保育・教職技術特論 IV</b>	
			兼任	講師	中俣(大成) 教子 (45) <令和2年4月> 修士(芸術)						
				こどもの健康と安全							



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	山田 真季 (37) <平成31年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	山田 真季 (37) <平成31年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	山田 真季 (39) <平成31年4月> 修士(音楽)	兼任	講師	山田 真季 (40) <平成31年4月> 修士(音楽)
	音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ			音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ			音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ			音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ	
兼任	講師	山本 晃輔 (37) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	講師	山本 晃輔 (36) <令和2年4月> 修士(人間科学)						
	こども教育とメディア 教育社会学			こども教育とメディア 教育社会学							
兼任	講師	本宮 裕示郎 (37) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	本宮 裕示郎 (36) <令和2年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	本宮 裕示郎 (37) <令和2年4月> 修士(教育学)			
	教育課程論			教育課程論			教育課程論				
兼任	講師	渡部 宏 (36) <平成31年4月> 博士(農学)	兼任	講師	渡部 宏 (36) <平成31年4月> 博士(農学)	兼任	講師	渡部 宏 (37) <平成31年4月> 博士(農学)	兼任	講師	渡部 宏 (39) <平成31年4月> 博士(農学)
	自然と人間C(環境)			自然と人間C(環境)			自然と人間C(環境)			自然と人間C(環境)	
						兼任	講師	江上 直樹 (36) <令和3年9月> 修士(教育学)	兼任	講師	江上 直樹 (37) <令和3年9月> 修士(教育学)
							教育行政学			教育行政学	
			兼任	講師	初瀬川 未雪 (34) <令和元年9月> 修士(芸術)	兼任	講師	初瀬川 未雪 (36) <令和元年9月> 修士(芸術)	兼任	講師	初瀬川 未雪 (37) <令和元年9月> 修士(芸術)
				音楽科研究Ⅰ	兼任	講師	音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ	兼任	講師	音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ	
						兼任	講師	新谷 暹 (33) <令和3年4月> 修士(言語文化学)	兼任	講師	新谷 暹 (35) <令和3年4月> 修士(言語文化学)
							外国人児童の指導			外国人児童の指導	
			兼任	講師	新崎 洋実 (31) <令和元年9月> 学士(芸術)	兼任	講師	新崎 洋実 (32) <令和元年9月> 学士(芸術)	兼任	講師	新崎 洋実 (34) <令和元年9月> 学士(芸術)
				音楽科研究Ⅰ	兼任	講師	音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ	兼任	講師	音楽科研究Ⅰ 音楽科研究Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅰ 保育・教職技術特論Ⅱ 保育・教職技術特論Ⅲ 保育・教職技術特論Ⅳ	
									兼任	講師	向井 大善 (34) <令和4年4月> 博士(学校教育学)
										理科研究Ⅰ	
									兼任	講師	藤村 達也 (29) <令和4年4月> 修士(教育学)
										教育社会学	
兼任	講師	日高 利泰 (32) <令和2年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	日高 利泰 (31) <令和2年4月> 修士(人間・環境学)	兼任	講師	日高 利泰 (32) <令和2年4月> 修士(人間・環境学)			
	こどもの文化と教育			こどもの文化と教育			こどもの文化と教育※				
						兼任	講師	伊藤 莉央 (27) <令和2年4月> 修士(人間科学)	兼任	講師	伊藤 莉央 (28) <令和2年4月> 修士(人間科学)
							教育社会学			教育社会学	



(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・複数クラスを兼任又は兼任で担当している科目について、教育内容の平準化を図るため、担当クラスを調整し担当者を変更。
- ・追加開講した科目について、兼任又は兼任の担当者を追加。
- ・山本順彦教授が前期末辞任。後期担当科目を削除し、専任教員の担当科目を追加及び兼任の担当者を追加。
- ・教育内容充実を図るため、担当者を追加。

【令和2年度】

- ・令和2年4月松浦真理教授就任により、担当者及び担当科目を変更。
- ・複数の専任教員で担当している科目について、調整し担当者及び担当科目を変更。
- ・複数クラス又は関連複数科目を兼任又は兼任で担当している科目について、調整し担当者及び担当科目を変更。
- ・担当予定兼任又は兼任教員辞任により、担当者及び担当科目を変更。

【令和3年度】

- ・令和3年3月勝美芳雄教授辞任、後任として令和3年4月城田直彦教授就任により、担当者及び担当科目を変更。
- ・複数の専任教員で担当している科目について、調整し担当者及び担当科目を変更。
- ・複数クラス又は関連複数科目について、調整し担当者及び担当科目を変更。
- ・担当予定兼任又は兼任教員辞任により、担当者及び担当科目を変更。
- ・「総合的な学習の時間の指導法」について、教職課程事後調査対応届のとおり、専任教員3名（オムニバス）から兼任1名に変更。

【令和4年度】

- ・令和4年3月日高翼講師辞任により、兼任の担当者を追加。後任未定であるが、令和4年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・複数の専任教員で担当している科目について、調整し担当者及び担当科目を変更。
- ・複数クラス又は関連複数科目について、調整し担当者及び担当科目を変更。
- ・担当予定兼任又は兼任教員辞任により、担当者及び担当科目を変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
5	5	3	0	13	0	6	5	1	0	12	0
(5)	(5)	(3)	(0)	(13)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
6	5	1	0	12	0	6	5	1	0	12	0
[+1]	[ ]	[Δ2]	[ ]	[Δ1]	[ ]	[+1]	[ ]	[Δ2]	[ ]	[Δ1]	[ ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{13} = \boxed{92.3} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{12} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0
		計	0	科目	計	0	科目	計	0

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	山本 順彦	R1.9	必修	基礎演習Ⅰ	①	R1.9.30付け体調不良のため辞任(2)
				必修	基礎演習Ⅱ	①	
				必修	こども教育学概論※	①	
				選択	道徳教育論	②	
				選択	教職論	①	
				選択	教育原理	①	
				選択	特別活動論	②	
				選択	保育・教職実践演習(幼・小)	①	
				必修	応用演習Ⅰ	①	
				必修	ゼミナールⅠ	①	
				必修	ゼミナールⅡ	①	
				必修	ゼミナールⅢ	①	
				必修	ゼミナールⅣ	①	
選択	卒業研究	①					
2	教授	勝美 芳雄	R3.3	必修	こども教育学概論※	①	R3.3.31付け自己都合のため辞任(3)
				選択	幼児と環境※	①	
				選択	算数科研究Ⅰ	①	
				選択	算数科研究Ⅱ	①	
				選択	算数科教育法	①	
				選択	教育実習事前事後指導(小学校)	①	
				選択	教育実習(小学校)	①	
				選択	保育・教職実践演習(幼・小)	①	
				選択	介護等体験Ⅰ	①	
				必修	応用演習Ⅰ	①	
				必修	ゼミナールⅠ	①	
				必修	ゼミナールⅡ	①	
				必修	ゼミナールⅢ	①	
				必修	ゼミナールⅣ	①	
選択	卒業研究	①					

3	講師	日高 翼	R4.3	必修	基礎演習Ⅰ	①	R4.3.31付け自己都合のため辞任(4)
				必修	基礎演習Ⅱ	①	
				選択	幼児と環境※	①	
				選択	理科研究Ⅰ	②	
				選択	理科研究Ⅱ	③	
				選択	理科教育法	②	
				選択	教育実習事前事後指導(小学校)	②	
				選択	教育実習(小学校)	①	
				必修	応用演習Ⅰ	①	
				必修	ゼミナールⅠ	①	
				必修	ゼミナールⅡ	①	
				必修	ゼミナールⅢ	①	
				必修	ゼミナールⅣ	①	
選択	卒業研究	①					

合計(F)				後任補充状況の集計(G)								
辞任した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
3	人	必修	21	科目	必修	21	科目	必修	0	科目	必修	0
		選択	22	科目	選択	16	科目	選択	5	科目	選択	1
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0
		計	43	科目	計	37	科目	計	5	科目	計	1

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)				後任補充状況の集計(E)+(G)								
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
3	人	必修	21	科目	必修	21	科目	必修	0	科目	必修	0
		選択	22	科目	選択	16	科目	選択	5	科目	選択	1
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0
		計	43	科目	計	37	科目	計	5	科目	計	1

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{13} = \boxed{23.07} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。



(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和元年度前期に退職の申し出があり、直ぐに後任採用の手続きを進め、令和2年度前期から後任の新規採用専任教員が就任した。令和3年度後期については、専任教員で共同担当科目を補い、一部科目を兼任教員が担当することで、学生の履修に不利益が生じないように対応し、関係学生には令和元年度後期の履修ガイダンスで周知した。

令和2年度前期に退職の申し出があり、直ぐに後任採用の手続きを進め、令和3年度前期から後任の新規採用専任教員が就任していることで学生の履修等に影響はない。関係学生には、令和3年度前期の履修ガイダンスで周知した。

令和4年度1月に退職の申し出があり、直ぐに後任採用の手続きを進め、令和4年9月から専任教員採用予定で公募中である。令和4年度については、専任教員で共同担当科目等を補い、一部科目を兼任教員が担当することで、学生の履修に不利益が生じないように対応している関係学生には、令和4年度前期の履修ガイダンスで周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。





科目

科目

科目

科目



科目

科目

科目

科目

科目
科目
科目
科目

元  
；  
、  
つ  
り。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画	
認 可 時 (平成30年)	○帝塚山大学経済経営学部経済経営学科及び現代生活学部居住空間デザイン学科の入学定員超過の是正に努めること。	指摘事項 (改善)	平成31年度入試より、該当学部学科の入試政策における定員管理の一層の厳格化を行った。その結果、平成31年度入試において、経済経営学部経済経営学科の入学定員充足率は1.19となった。また、現代生活学部居住空間デザイン学科は、入学定員充足率が1.24となり改善を図ることができた。 (元)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年)	○帝塚山大学の既存学科等(現代生活学部居住空間デザイン学科)の入学定員超過の改善に務めること。	指摘事項 (改善)	令和2年度入試においても募集環境の変化を念頭に置いて入試政策における定員管理の一層の厳格化を行ったが、結果として入学定員充足率は昨年同様1.24となった。(2)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	○帝塚山大学の既設学科等(現代生活学部居住空間デザイン学科)の入学定員超過の改善に務めること。	指摘事項 (改善)	令和3年度入試においても募集環境の変化を念頭に置き、入試政策における定員管理の一層の厳格化を行った結果、入学定員充足率は1.11となり改善を図ることができた。(3)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (令和3年)	該当なし			履行済

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘**を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <教育学部 こども教育学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>設置に際して提出した設置計画書に、教育方法、履修指導方法として記載した内容は、学生が大学キャンパスに登校し、教室や演習室等において教員と学生が対面授業の形式で講義科目、演習科目を受講することを前提としていた。アドバイザー教員による指導も同様に対面を前提に記述していた。また学年暦にしたがい、あらかじめ示した「授業計画（シラバス）」に基づき、授業を行い、成績評価、単位認定等を行うこととしていた。</p>	<p>令和4年度は、全学的に対面授業での実施を基本方針として開講することとしていた。ただし、対面授業を基本としつつも、授業ごとに事情がある場合は、その理由を精査のうえ遠隔授業での実施とすることも認めている。結果、教育学部開講の科目においては、教室の収容定員超過（新型コロナウイルス感染対策に配慮し、座席間隔を空けた試験定員で教室の収容定員を設定している）となる科目があったため、その科目についてはオンデマンド型の遠隔授業での実施となった。</p> <p>なお、学生に対しては、配付している時間割表等に当該科目が遠隔授業であることを明記して周知徹底を図っている。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学における全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な整備・改善の推進及び支援、並びにFD推進の企画及び大学教育の充実と発展に寄与することを目的として「全学教育開発センター」を設置し、関係する議案を審議するため、「全学教育開発センター運営委員会」および「FD推進委員会」を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>センター長の他、学部から選出された教員（各学部1または2名）、事務職員（3名）により、年間11回の会議を実施した（令和3年度実績）。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教員の資質の維持向上の方策については、授業改善アンケート、公開授業、公開授業週間、学生ヒアリング、FDフォーラム等の教員の資質の維持向上に係る案件を審議している。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業改善アンケートの実施および結果を踏まえた意見交換会の実施（前期、後期）</li> <li>・ 公開授業の実施および参観者からの意見を踏まえた授業検討会の実施（前期）</li> <li>・ 公開授業週間の実施および参観者からの意見を踏まえた授業検討会の実施（後期）</li> <li>・ 学生ヒアリングの実施</li> <li>・ FDフォーラムの開催（年2回）</li> <li>・ シラバス作成のためのFD（年1回）</li> <li>・ 外部のFD関係研修会への参加と報告会の実施</li> </ul>
--

b 実施方法

- ・授業改善アンケートは、実施期間を決め、授業担当教員の最も履修者数の多い科目について実施し、教学支援課（学部事務共通）がその結果を取りまとめ、各教員にフィードバックする。また、アンケート結果を踏まえ、学内FDとして意見交換会を実施する。
- ・公開授業は、前期は各学部からの選出者が各1回、後期は原則全専任教員が全授業を公開し、参観者からの意見は教学支援課（学部事務共通）が取りまとめ、各教員にフィードバックする。その意見を踏まえ、学内FDとして授業検討会を実施する。
- ・学生ヒアリングは前・後期の授業改善アンケート実施後に行い、授業改善アンケートおよび学部の教育環境について意見を聴取する。
- ・FDフォーラムは、本学が取り組みたいと考えている課題に向けて、学内外の識者を講師として招き、講演やグループワーク等の形式で開催する。
- ・シラバス作成のためのFDは、次年度のシラバス作成にあたって注意すべき点等についての説明会を各学部で実施する。
- ・外部のFD関係研修会への積極的な参加を促し、参加者は所属学部において報告会を実施する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・授業改善アンケートは例年、前期5月～6月、後期11月の年2回、専任・非常勤を問わず原則として前期は全科目、後期は1人1科目実施し、教授会内でアンケート結果を踏まえた意見交換会を実施した。
- ・公開授業は例年、前期と後期に実施し、教授会内で参観者の意見を踏まえた検討会を実施しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により遠隔授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業となったため実施できていない。
- ・学生ヒアリングは、全学教育開発センター運営委員が学部生に対して実施し、授業改善アンケートおよび教育環境についての意見を聴取した。
- ・FDフォーラムは年2回実施し、令和3年度は学外の大学教員に「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）教育の取組」、学内の教員に「数理・データサイエンス・AI（リテラシー）」に関わる学内の授業実践事例とデータサイエンス教育の意義」と題した講演をいただいた。参加者は、第1回（9月）140人、第2回（2月）104人であった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業改善アンケートの結果を踏まえ、授業改善に活かすことができるように、各授業担当者からの意見聴取を継続して行った。教員からの授業改善方法の部分については、昨年度に引き続き、学内サーバーで学生及び教職員に公開した。さらに、授業改善を促すために、昨年度に引き続き、本学の教員が授業で工夫している点をまとめた「ティーチング・ティップス集」を配付した。
- ・年度のまとめとして「FD報告集」を刊行し、本学の学術機関リポジトリに公開して情報を共有した（令和4年3月刊行）。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施している。  
令和3年度実施時期＝前期：6月3日（木）～6月9日（水）、後期：11月8日（月）～11月20日（土）

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業改善アンケート実施後に教員から提出された「結果を踏まえた授業改善方法」を学内サーバーで原文のまま教職員及び学生に公開した。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日

該当なし

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況



#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

教育学部こども教育学科では、教育の現場やそれを取り巻く環境には、教員の資質能力向上、教育現場におけるICTの活用、様々な校種間の連携など、実現が期待される新たな課題が山積しているとの認識のもと、「教育についての研究を基に、教育に関する現代的な諸課題を分析し、その成果を社会に提供できる人材を養成する。」を本学部の人材養成目的としている。そして、教育学・保育学分野のさまざまな知識と技能を学ぶ科目、その知識や技能を実際の社会で活用する能力を修得する科目、主体的な意識と態度を養う科目、多様なコミュニケーションを学ぶ科目、社会人としての自立を支援する科目等を開講し、以下の教育方法等に基づき、人材養成目的に沿った有為な人材を育成している。

(1) 少人数による演習で、個々に応じることを基本とする

初年次教育として、基礎ゼミを9～11名で編成し、各ゼミ担当をアドバイザー教員とする。1年次の専門基礎科目「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は卒業に関する必修科目として位置づけ、リメディアル教育、大学における授業の受け方やレポートの書き方、専門科目への入門的講義や演習、各進路別概要の講義や演習、本学園併設の小学校や幼稚園の見学、地域の子育てを支援する子育て支援センターでの実習など、大学で学ぶ基礎を培う教育を展開する。また、「音楽科研究Ⅰ・Ⅱ」「保育教職技術特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、5～8名ごとに授業担当者を決定し、技能の指導の充実を図る。共通教養科目である語学科目は1学年を4クラスに分割した体制で少人数での教育を実施する。

(2) 実践的・体験的な学習を必要に応じて取り入れる

1年次の「基礎演習Ⅱ」の中で行っている子育て支援センターでのリフレクション実習では、親子の遊びに関わる体験をし、少人数で行う事後指導で親子と自分のかかわりを撮影した動画をみて記録をまとめることで、その後の学習意欲を高めるとともに自分自身の課題をみつける機会とする。

(3) ステップ式教育（段階的な学び）

講義と演習を開設する科目では講義科目を先に配置する。また、保育士資格・幼稚園教員免許関連科目、小学校教員免許関連科目の順に科目を配置する。さらに、学園内での施設や学校でリフレクション実習、トライアル実習を経て、学外実習に参加する。このようなステップ式教育を採用することで、すべての学生をディプロマ・ポリシーに掲げた知識・能力・資質の修得に導くことを可能にする。

(4) アクティブ・ラーニング

幼稚園教員と小学校教員の養成にかかるすべての科目で、アクティブ・ラーニングの「主体的、対話的で深い学び」を教授する。幼稚園教員の養成にかかる科目と保育士養成にかかる科目は重なるところが多いので、保育士養成にかかる科目を担当する教員もアクティブ・ラーニングを意識した授業を展開できる。遠隔授業に関しても、本学のe-learningシステムであるTALESを用いて、「主体的、対話的で深い学び」につながる活動を取り入れている。

(5) 実践的な学びとそのリフレクション（振り返り）

子どもと接した際の関わり方の振り返り、毎回の授業の振り返り、実施した課題の振り返り、学期毎の成績の振り返りを重視する。資格や免許に関する科目では目標に近づいたかどうかの振り返りにも力点を置く。インターンシップ等の実践的な学びで活用できる振り返り用シートを開発している。

このほか、履修ガイダンス時には、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」を「履修要項」を用いて示すとともに、4年間の学びをロードマップとして示すリーフレットを作成・配付して、教育課程の理解を促した。

これらの取り組みの成果もあり、昨年度後期に実施した学習行動調査では、これまでに身についたと思う「力」や「知識」についても設問に対しては、「主体性（53.7%）[昨年比1.3ポイント増加]」を挙げる学生が多く、実学教育を推進する本学の教育方針に沿った結果が得られている。

総じて、当初計画を実行し、かつ、コロナ禍に対応して臨機応変に教育活動に当たっている現状である。今後も、教育方法・運営方法について検証のうえ、さらに改善・工夫を加えていくことを予定している。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

- ・自己点検・評価報告書（令和2年度版）を令和3年3月31日付で作成、認証評価受審後の令和4年4月に公表。

###### b 公表方法

- ・大学ホームページ上で公表している。

##### ③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

- ・令和3年度に認証評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受審し、「適合」との評価結果を得た。
- ・次回、令和10年度に認証評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・ 無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ） ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。